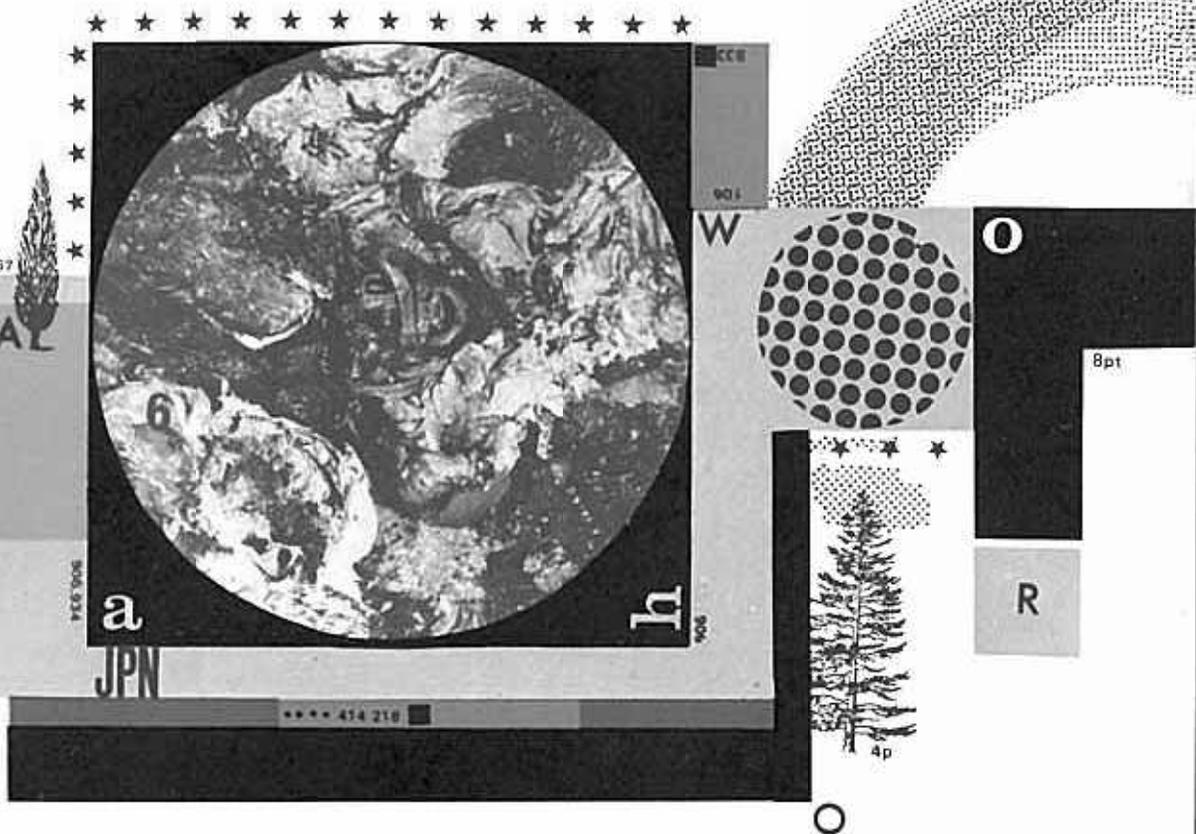


昭和50年度

佐賀県立博物館年報



No. **6**



佐賀県立博物館全景

目 次

はじめに	1
管理の概要	2
1. 本館の沿革	2
2. 博物館日誌	3
3. 規模および施設	8
4. 組織	9
5. 博物館協議会	10
6. 昭和50年度歳出予算	11
事業の概況	12
1. 常設展	12
2. 企画展	21
3. 昭和50年度観覧者数	44
4. 普及活動	45
5. 発掘調査	47
資料の概況	49
1. 昭和49年度末資料の概況	49
2. 昭和50年度購入資料	53
3. 昭和50年度寄贈資料	57
4. 昭和50年度寄託資料	59
茶室の管理と運営の概況	61
1. 茶室の規模および施設	61
2. 茶室の規則、規程	61
3. 茶室の利用状況	63
4. 茶道具資料	63
昭和51年度の事業計画	66
案内図	68

はじめに

昭和50年度における当博物館の事業概要をとりまとめました。本年度は当館発足第6年目になり、年度の重点目標を資料の整備、常設展の充実、特別企画展の開催において努力しましたが、関係各位のご支援とご協力を受け、ある面では予想以上に、ある面では期待したところにほぼ近い成果を挙げることができましたことを深く感謝いたします。

昭和50年度は常設の「佐賀県の歴史と文化展」の展示には、変化のある内容をもたせて実施したほか、「肥前の仏教美術展」「三根霞郷展」を特別に企画し、広く一般公開展示する外、図録を刊行し頒布することができました。

また、外部との連携企画展では「佐賀美術協会展」「化石と進化展」「ドレスデン美術館、古伊万里名品展」「勤労者美術展」「理科作品展」「九州、沖縄グラフィックデザイン展」「佐賀県美術展」「佐賀県高等学校美術展」「佐賀県高等学校書道展」「佐賀県書道教育連盟、書初展」「筒井茂雄佐賀大学教授退官記念展」「佐賀大学卒業制作展」等を共催したが、企画にも参画して所期の実績をあげることができました。

しかしこのことで十分なものではなく、今後更に資料を充実整備し、研究調査体制の強化、展示内容の質的向上と量的拡大をはかるとともに、普及広報活動、教育活動を充実し博物館事業の伸長を計ることにつとめたいと考えております。

なお故市村清夫人幸恵氏から寄贈をうけた茶室「清恵庵」も、開室3年目を迎え、一般に利用が周知され、利用者、見学者ともに漸増しております。県内に数少ない折角の施設ですので、利用、管理に万全を期したいと考えております。

ここに昭和50年度の事業を集録し、ご報告申し上げます。

昭和51年6月30日

佐賀県立博物館長 大園 弘

管 理 の 概 況

1. 本館の沿革

- 昭和23年4月1日 佐賀県中央公民館設置条例に基づき、中央公民館設置。
- 昭和26年4月1日 中央公民館設置条例が廃止され、佐賀県文化館設置条例に基づく県文化館が設置される。
- 昭和35年4月1日 佐賀県文化館設置条例を、博物館登録のため改正。博物館法第10条に基づき、佐賀県文化館を博物館として登録する。
明治百年記念事業として県立博物館を建設することになり、佐賀大学教育学部跡を敷地に選定、昭和42年度に設計を委託し、建設計画に着手し、昭和43年度から45年度にわたる継続事業として建設することになる。
- 昭和44年1月21日 佐賀県博物館建設整備委員会を設置。
- 昭和44年1月23日 佐賀県立博物館起工式。
- 昭和45年3月31日 佐賀県文化館設置条例廃止。
佐賀県立博物館設置条例公布。
佐賀県立博物館協議会条例公布。
佐賀県教育庁博物館開設準備事務局設置。
- 昭和45年7月1日 佐賀県立博物館竣工。
佐賀県立博物館設置条例施行。
博物館開設準備事務局廃止。
博物館職員が発令、館長以下18名。
佐賀県立博物館協議会条例施行。
- 昭和45年7月16日 佐賀県立博物館協議会委員を任命。
- 昭和45年10月14日 佐賀県立博物館開館記念式挙行。
- 昭和47年3月4日 鉄器、木器減圧含浸装置を研究室に設置。
- 昭和47年12月20日 城内公園の一部（西側駐車場、東側噴水）が佐賀土木事務所から博物館に管理委任される。
- 昭和48年10月10日 茶室「清恵庵」を市村清氏のご遺志により市村幸恵夫人から寄贈を受ける。茶室落成式。
- 昭和49年3月30日 時計塔を西日本新聞社より第4回日展記念として寄贈を受ける。
- 昭和50年9月20日 古賀忠雄氏作「岬の男」（ブロンズ）前庭に据付完成。

2. 博物館日誌（昭和50年度）

50年

- 4月5日 宮崎女子短期大学教授野口逸三郎氏来館
- 4月7日 岐阜県島内重夫氏来館
- 4月9日 東京都北風倚子氏来館
- 4月16日 県庁新採者初任者研修60名来館
- 4月26日 慶尚大学講師金相朝氏来館
- 5月2日 佐賀市長から古賀忠雄氏作「新鉱開発」寄贈を受ける。
- 5月5日 「こどもの日」常設展無料公開
- 5月11日 裏千家青年部茶会、茶室を中心に開催
絵を描く大会（本館周辺）
- 5月19日 大分県中野幡能氏来館
- 5月21日 「佐賀美術協会展」開場（3号展示室・大展示室、25日まで）
- 5月29日 国立科学博物館研究室長藤山氏、青柳氏来館
- 5月30日 国立科学博物館事業部長鶴田総一郎氏、研究部長浅間一男氏来館
「月の石」到着
佐賀大学助教授西田民雄氏来館
- 5月31日 14時から「化石と進化展」開場式。福田 繁国立科学博物館長、池田県知事、朝日新聞
代表等75名出席
山口県立博物館長白杵華臣氏、陶山義仁学芸員来館
- 6月1日 「化石と進化展」開場（22日まで）
人事異動
- 6月22日 国立科学博物館普及課長手塚映男氏来館
- 6月22日 「化石と進化展」終了（観覧者30,964名。）
- 7月1日 「古伊万里名品展」開場式、相良県出納長、西日本新聞社代表等約80名出席
東京都、第一工房高橋靖一氏、九州大学教授岡崎 敏氏来館
- 7月2日 ドレスデン美術館、民俗館学芸員ヨハネス、ユスト氏来館
- 7月3日 長崎放送株式会社（NBC）制作フィルム「赤絵旋風」試写
- 7月5日 長崎市立博物館友の会54名来館
- 7月8日 「古伊万里名品展」記念講演会

「マイセン窯の成立をめぐる」東京大学文学部教授前川誠郎氏

- 7月9日 大牟田市佐々木盛行氏来館
- 7月10日 有田中学校750名来館
- 7月11日 武蔵工業大学教授杉本 勲氏来館
- 7月13日 ミシガン大学教授ベッカー氏来館
- 7月15日 博物館実務実習(21日まで)
金沢芸術大学 千綿勝彦
共立女子大学 通山伸子
伊万里市藤本教育長来館
- 7月16日 長崎市立博物館長越中哲也氏来館
- 7月19日 仏教美術展展示協力委員会(木下之治氏、三好不二雄氏、平田 寛氏)
第一回博物館協議会
- 7月24日 東京都北風倚子氏来館
- 7月28日 島根大学教授原 宏氏来館
- 7月29日 県広報会議、NHK広報担当者会議を大展示室で開催
- 8月1日 人事異動
- 8月3日 ソウル大学教授金元龍氏、九州歴史資料館長三島 格氏来館
- 8月6日 「古伊万里名品展」終了(観覧者31,406名。)
G、ライン、ヘッケル氏来館
内閣法制局高橋参事官、文化庁美術工芸課石藤課長来館
- 8月13日 「常設展」再開(9月24日まで)
- 8月27日 佐賀市、親と小中学生社会見学団57名来館
東京芸術大学芸術資料館事務長青柳重孝氏来館
- 8月30日 「勤労者美術展開場」(9月7日まで・観覧者1,370名。)
- 9月2日 唐津市鏡神社の重要文化財楊柳観音像図を搬入
- 9月13日 「理科作品展佐賀市支部展」開場(17日まで・観覧者2,369名。)
鹿児島県明治百年記念館建設調査室長藤井徹夫氏来館
- 9月19日 「理科作品展佐賀県展」(25日まで、観覧者5,280名。)
- 9月21日 熊本市立博物館友の会60名来館
- 9月22日 山口県立博物館へ化石資料貸与
- 9月25日 坂の下遺跡出土のアラガシを外庭へ移植
- 9月27日 「九州沖縄グラフィックデザイン展」開場(10月1日まで、観覧者1,232名。)

- 10月3日 池田県知事来館
- 10月4日 全国都市職員災害共済会事務局長野口鉄城氏、県市長会事務局長福地 亘氏来館
- 10月9日 「肥前の仏教美術展」招待公開（約50名出席）
「仏教美術展」紙上座談会（佐賀新聞）
- 10月10日 「肥前の仏教美術展」開場（11月9日まで・観覧者10,140名。）
- 10月14日 国体芸術展打合せ会
- 10月17日 三日月町高齢者学級50名来館
- 10月18日 多久市移動博物館開催（22日まで）
- 10月21、22日 九州博物館協議会主催、事務職員学芸員研修会当館で開催
講師国立奈良文化財研究所沢田正昭技官
- 10月25日 第2回博物館協議会
「肥前の仏教美術展」講演会
「大陸文化と肥前の仏教文化の交流について」
講師、九州大学助教授 平田 寛氏
- 11月1日 「肥前の仏教美術展」講演会
「肥前の石仏について」
講師、県文化財調査監 木下之治氏
- 11月4日 鍋島直泰氏御夫妻、北風倚子氏来館
- 11月6日 宇治市黄檗宗大本山塔頭緑樹院村瀬玄妙氏来館
- 11月8日 「肥前の仏教美術展」講演会
「肥前の高僧について」
講師・多久市南多久小学校教諭 北島治慶氏
- 11月13日 鹿児島県文化センター 徳重俊二氏来館
- 11月15日 三瀬村移動博物館開催（17日まで）
- 11月19日 長崎県立美術博物館長若浦重雄氏来館
- 11月21日 国立民族学博物館 篠田隆夫氏、山室邦夫氏来館
- 11月22日 「佐賀県美術展」開場（30日まで・観覧者12,912名。）
- 11月25日 行政管理庁次官平井迪郎氏来館
- 11月28日 鳥栖市移動博物館開催（30日まで）
- 12月5日 「佐賀県学童美術展」開場（8日まで・観覧者1,922名。）
- 12月7日 「常設展」再開（3月31日まで）
- 12月16日 「佐賀県高等学校美術展」開場（21日まで・観覧者1376名）

12月27日 執務納め

51年

1月5日 執務始め

1月9日 九州沖繩文化協会主催「装飾古墳壁画展」打合せ会を当館で開催。
事務局長大場重保氏他出席

1月13日 愛媛県新居浜市真鍋修身氏、青野太一氏来館

1月14日 青森県教育庁、木村フサ子氏来館

1月15日 「成人の日」常設展無料公開

1月16日 九州芸術工科大学教授岸田 勉氏来館

1月21日 文化庁文化財調査官野口義磨氏来館

1月22日 「佐賀県高等学校書道展」開場（25日まで・観覧者411名。）

1月23日 九州沖繩文化協会へ「装飾古墳壁画展」資料一括貸出

1月27日 山口県立博物館 好宮 昭氏来館

1月28日 国立近代美術館佐藤 武氏来館

総理府職員2名来館

1月29日 宮崎県社会教育課西山保市氏他PTA指導者30名来館

2月2日 楊柳観音像図を大展示室で、X線、赤外線写真等各種撮影

2月5日 「佐賀県書道教育連盟、書初展」（8日まで・観覧者1,468名。）

2月12日 佐賀駅北口、反射炉模型除幕式、当館からも出席

2月13日 群馬県出納長山中庄太郎氏、相良県出納長他来館（茶室使用）

2月14日 「筒井茂雄佐賀大学教授退官記念展」開場（18日まで・観覧者1,461名。）

2月17日 県監査委員監査

会計検査院文部検査課副長高橋新太郎氏来館

2月19日 富山県教育委員5名施設調査のため来館

2月20日 愛媛県立博物館山岡主事来館

2月21日 県広報課、県民室主催「主婦の県政バス」施設見学50名来館

2月22日 「佐賀大学卒業制作展」開場（28日まで・観覧者1,078名。）

2月23日 在日ドイツ連邦共和国（西ドイツ）神戸総領事ルアー氏夫妻、西島ポンプ(株)社長原田竜平氏来館、（茶室使用）

3月2日 東京国立博物館原史室長、亀井正道氏来館

文化庁文化財調査官山本信吉氏、湯山賢一氏来館

- 3月5日 東京芸術大学名誉教授、日下八光氏、東京国立文化財研究所研究員、陰里鉄郎氏来館
- 3月6日 「三根霞郷展」開場（4月7日まで）
（3月31日までの観覧者3,923名。）
- 3月7日 英国留学生、リンダ、バトラー氏来館
- 3月9日 今泉今右衛門氏、中里太郎右衛門氏、酒井田柿右衛門氏、鈴田照次氏来館
鳥栖市庚申堂塚発掘調査（3月19日まで）
- 3月10日 在日中華人民共和国大使館、李参事官一行来館
讃岐石（約1トン）大町町長梶原卓馬氏寄贈
玄武岩質集塊岩（約7トン）相知町池、友田岩次郎氏寄贈
- 3月13日 第3回博物館協議会
- 3月18日 郁芳会から染付大花生寄託
読売新聞西部本社、谷健太郎氏取材のため来館
- 3月22日 伊万里市長浜婦人会65名来館
- 3月26日 日本伝統工芸秀作展佐賀展実行委員会
- 3月27日 当館茶室において、小山富士夫先生追悼茶会
徳島県立博物館、田中正陽氏来館
- 3月31日 緑光会展開催（大展示室）

3. 規格および施設

規 模

(1)本館	構造	鉄筋コンクリート造	3階建
	規模	敷地面積	30,962.0m ² (公園を含む)
		建築面積	2,149.1m ²
		延床面積	4,638.0m ²
(2)茶室 (清恵庵)	構造	木造平屋建	
	規模	床面積	57.35 m ²

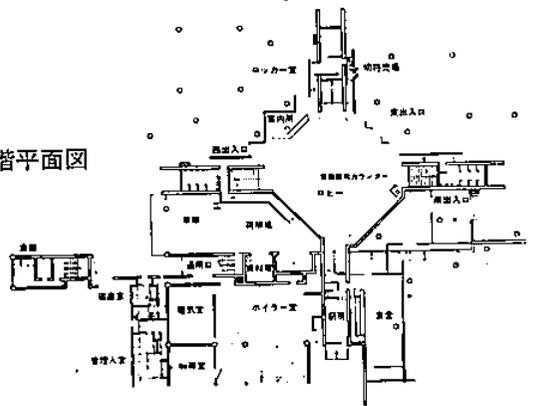
施設概要

ロビー

(案内所、常設展受付)	349.5m ²
1号展示室	193.6m ²
2号展示室	352.0m ²
3号展示室	484.0m ²
大展示室	523.5m ²
中展示室	136.0m ²
研究室(ガス、水道つき)	66.0m ²
事務室	80.0m ²
館長室、応接室	60.0m ²
資料調査室	64.0m ²
撮影暗室	24.0m ²
車庫	56.0m ²
荷解場	86.0m ²

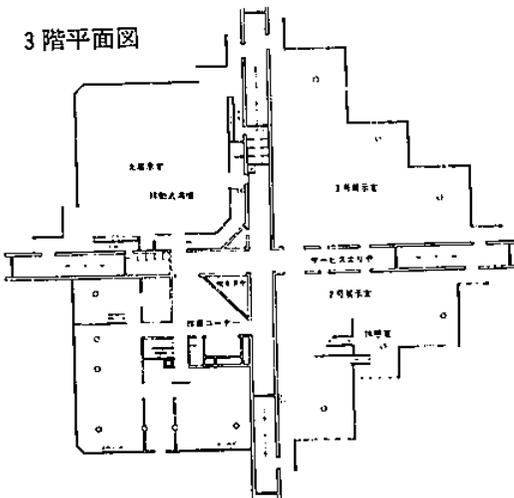
電気室	48.0m ²
ボイラー室	157.0m ²
食堂	60.0m ²

1階平面図

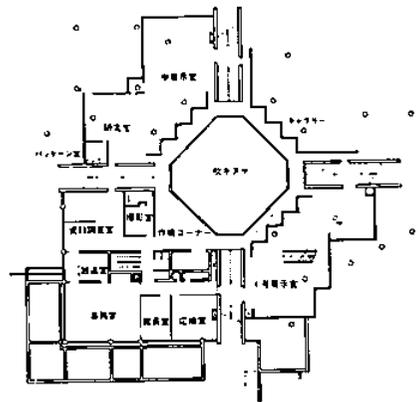


平面図

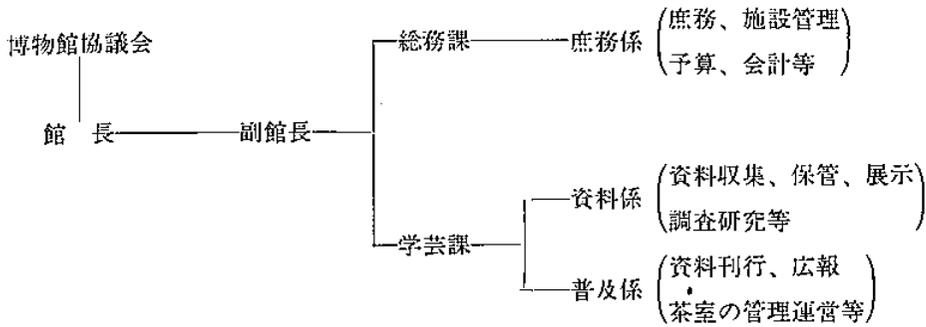
3階平面図



2階平面図



4. 組 織



職員名簿 (51. 3. 31現在)

館長	大園弘
副館長	小森清次
総務課長 (事務取扱)	小森清次 (本務副館長)
庶務係長	酒見四郎
主事	中村やを
〃	小林静枝
技術員	穂月勝次
技師 (兼務)	江口実次 (本務県体育館)
事務員 (守衛)	坂井卓次
〃	小石武彦
〃 (用務員兼 自動車運転)	竹下仁三
学芸課長	手塚静雄
資料係長	尾形善郎
学芸員補	志佐惲彦
学芸員	森醇一朗
学芸員補	小杉道久
学芸員	三輪英夫
非常勤嘱託	永竹威市
〃	久保儀市
〃	浜野四郎
普及係長 (事務取扱)	手塚静雄 (本務学芸課長)
主事	池田栄意子
〃	音成昭道

人事異動

昭和50年6月1日付
○退職
副館長 楠田一次
昭和50年8月1日付
○転出
総務課長 池田満穂、佐賀保健所総務課長へ
技師 吉岡喬二、総務部管財課へ
○転入
副館長 (総務課長) (事務取扱) 小森清次、佐賀県体育館 副館長より
技術員 穂月勝次、総務部管財課技術員より

5. 佐賀県立博物館協議会

委員名簿（定員15名）

（昭和51年3月31日現在）

種別	氏名	現職名	住所
学校教育 社会教育 関係	高添門司	佐賀県公民館連合会会長	伊万里市大川町大川野1098
	掛林貞夫	多久市教育長	多久市北多久町大字多久原4537
	湖ノ上友規	佐賀県立盲学校長	佐賀市天祐1丁目8～5
	野村寿男	伊万里小学校長	伊万里市松島町395
学識 経験 者	星野英夫	祐徳博物館長	鹿島市城内
	内山良男	佐賀大学名誉教授 佐賀県社会科研究会長	佐賀市本庄町5本杉16
	村山宅美	佐賀女子短期大学教授 佐賀県理科教育振興会長	佐賀市北川副町木原4本柳
	三好不二雄	佐賀大学名誉教授	佐賀市赤松町11-11
	石本秀雄	佐賀大学名誉教授 佐賀美術協会理事長	佐賀市中ノ小路9-29
	西村重雄	佐賀新聞編集局長	神埼郡千代田町境原387の2
	永淵大輔	佐賀県議会議員	佐賀市高木瀬町大字高木字東高木1406
	岸田勉	九州芸術工科大学教授	久留米市津福本町931の4
	岡崎敬	九州大学文学部教授	福岡市東区香椎御幸町合同宿舍9-14
	米倉利昭	佐賀大学教育学部教授	佐賀市本庄町大字本庄528-1
	平田寛	九州大学文学部助教授	福岡県宗像郡宗像町日の里5丁目3-35

協議会開催状況

第1回（50.7.19）

- 議題 (1) 昭和50年度予算について（6月補正を含む）
 (2) 昭和50年度の事業計画
 (3) その他

第2回（50.10.25）

- 議題 (1) 昭和51年度事業計画（粗案）
 (2) 昭和50年度事業経過
 (3) その他

第3回（51.3.13）

- 議題 (1) 昭和50年度事業報告
 (2) 昭和51年度予算(案)について
 (3) 昭和51年度事業計画について
 (4) その他

6. 昭和50年度歳出予算

昭和50年度歳出予算一覧

科 目	予 算 額 (単位千円)
1. 博物館運営費	35,671
管理運営費	34,801
会議及び研修費	462
博物館協議会費	408
2. 資料整備費	21,297
資料購入費	16,605
資料整理費	4,692
3. 調査研究費	960
研究費	390
調査費	570
4. 特別企画展開催費	9,657
化石と進化展	3,000
理科作品展	50
仏教美術展	5,090
三根霞郷展	1,517
5. 常設展示費	1,631
6. 普及事業費	681
研究講座費	46
巡回展示費	47
資料刊行費	588
7. 茶室管理運営費	1,220
計	71,117

事業の概況

1. 常設展

佐賀県の歴史と文化展

- 主催 佐賀県立博物館
- 会期 昭和50年4月1日～昭和50年5月25日
昭和50年8月13日～昭和50年9月24日
昭和50年12月7日～昭和51年3月31日
- 会場 1、2、3号展示室
- 観覧料 ○個人
大人50円 大、高生30円 中、小生20円
○団体（団体は20名以上）
大人30円 大、高生20円 中、小生10円

出品目録

自然史（1号展示室）

○岩石標本

- 花こう岩（大和町下田産）
- 閃緑岩（三瀬村三瀬峠産）
- はんれい岩（三瀬村三瀬峠産）
- 石英（富士町杉山産）
- 長石（富士町杉山産）
- 緑柱石（富士町杉山産）
- 流紋岩〔陶石〕（有田町白川谷産）
- 安山岩（多久市多久町東ノ原産）
- 玄武岩（多久市東多久町渋木産）
- 球状閃緑岩〔ナポレオン石〕
（多久市北多久町相浦産）
- 砂岩（叡木町浪瀬産）
- 凝灰岩（有田町黒髪山産）
- 結晶質石灰岩〔大理石〕（叡木町駅前産）
- けいそう土（嬉野町俵坂産）
- 蛇紋岩（叡木町産）

石綿（大和町西山田産）

滑石（長崎県西海町産）

○化石標本

- シダの化石（山口県大嶺町産）
- トクサの化石（山口県大嶺町産）
- イチョウの化石（山口県大嶺町産）
- ナギの化石（山口県大嶺町産）
- 石炭（新明治佐賀鉱業所坑内産）
- シキシマバスの化石（杵島鉱業所坑内産）
- ブナの化石（伊万里市立川鉱業所坑内産）
- ヤナギの化石（伊万里市立川鉱業所坑内産）
- けい化木（多久市古賀山鉱業所坑内産）
- メタセコイアの化石（伊万里市立川鉱業所坑内産）

○植物標本産）

- ヒカゲノカヅラ科
トウゲシバ（黒髪山産）

ヒロハトウゲシバ（黒髪山産）

ヒカゲノカツラ（黒髪山産）

イワヒバ科

カタヒバ（黒髪山産）

イワヒバ（黒髪山産）

ウラジロ科

コシダ（嬉野町式浪産）

ウラジロシダ（黒髪山産）

カネコシダ（黒髪山産）

イノモトソウ科

ホングウシダ（相知町岸岳産）

マツザカシダ（相知町岸岳産）

イノモトソウ（嬉野町式浪産）

タチシノブ（嬉野町式浪産）

オシダ科

イヌホシダ（鹿島市古枝産）

イヌイワデンダ（相知町八幡岳産）

オニヒカゲワラビ（相知町駒鳴峠産）

オオヒメワラビモドキ（熊本県矢部町内大臣産）

ミヤジマシダ（相知町岸岳産）

ツクシオオクジャク（熊本県矢部町内大臣産）

ゲシゲシシダ（嬉野町式浪産）

ミヤマクマワラビ（熊本県矢部町内大臣産）

ベニシダ（嬉野町式浪産）

シケシダ（嬉野町式浪産）

ヘラシダ（嬉野町式浪産）

ホシダ（嬉野町式浪産）

チヤセンシダ科

チヤセンシダ（嬉野町式浪産）

トラノオシダ（嬉野町式浪産）

トキワシダ（熊本県矢部町内大臣産）

ウラボシ科

ヒメサジラン（相知町作礼山産）

ノキシノブ（嬉野町式浪産）

マメズタ（嬉野町式浪産）

ミツデウラボシ（山内町産）

イワヒトデ（黒髪山産）

クリハラン（三船山産）

サジラン（黒髪山産）

イヌガヤ科

イヌガヤ（杵島山産）

ヒノキ科

ネズ〔ネズミサシ〕（鹿島市岩屋山産）

ハイビャクシン（馬渡島産）

ガマ科

ヒメガマ（伊万里市黒川産）

ミクリ科

ヤマトミクリ（武雄市産）

ヒルムシロ科

コバノヒルムシロ（浜玉町鳥巢産）

ヤナギモ（佐賀市産）

アマモ科

コアマモ（唐津市鏡産）

シバナ科

シバナ (伊万里市二里産)

オモダカ科

オモダカ (山内町産)

ウリカワ (山内町産)

トチカガミ科

セキショウモ (北茂安町豆津産)

ミズオオバコ (山内町産)

タケ科

オカメザサ (山内町産)

ミヤコザサ (脊振山産)

フシダカシノ (黒髪山産)

イネ科

ヨシ〔アシ〕 (北方町産)

アイアシ (北方町産)

カリマタガヤ (黒髪山産)

オオクサキビ (伊万里市産)

アブラススキ (山内町産)

ヌカボ (山内町産)

キュウシュウスズメノヒエ (山内町産)

スズメノテッポウ (山内町産)

カモジグサ (山内町産)

トボシガラ (山内町産)

カヤツリグサ科

ヒトモトススキ (大町町産)

ミクリガヤ (上峰村堤産)

ヒメクグ (山内町産)

トラノハナヒゲ (相知町見埴産)

イヌノハナヒゲ (巖木町天川産)

イトイヌノハナヒゲ (東脊振村大曲産)

イガクサ (嬉野町下宿産)

シズイ〔テガヌマイ〕 (七山村桑原産)

ミカワシンジュガヤ (東脊振村大曲産)

シンジュガヤ (嬉野町下宿産)

ラン科

ナツエビネ (八幡岳産)

ミヤマウズラ (嬉野町大野原産)

カキラン (黒髪山産)

コ克蘭 (金立山産)

キエビネ (黒髪山産)

エビネ (岸岳産)

シュンラン (山内町産)

クモキリソウ (七山村浮岳産)

サイハイラン (岸岳産)

○植物生態カラーパネル

エビネ キエビネ

クロカミラン タイリンアオイ

セッコク シチメンソウ

○模型

ダイラノザウルス

佐賀県模型

有明海干がた生物模型

○ヤクスギ切断標本

○説明パネル

佐賀県地質図

佐賀県植生図

佐賀市街地図

唐津市街地図

考古資料（2号展示室）

考古（先土器時代）

- 鬼の鼻山（杵島郡大町町）採集の安山岩の原石
- 腰岳（伊万里市）採集の黒曜石の原石
- 三年山・茶園原遺跡（多久市多久町）
大形尖頭状石器 13

- 切立遺跡（東松浦郡鎮西町）
台形石器 3
ナイフ形石器 6
- 伊古石遺跡（西松浦郡西有田町）
ナイフ形石器 2

考古（縄文時代）

- 伊古石遺跡（西松浦郡西有田町）
尖頭状石器 3
磨製石鏃 7
- 盗人岩洞穴遺跡（西松浦郡西有田町）
櫛目文土器 3
柳葉状石槍 9
石鏃 3
石斧 2
スリ石 1
- 白蛇山岩陰遺跡（伊万里市東山代町）
貝殻圧痕文土器 1
各種押型文土器 6
隆帯文土器 2
ツメ形文土器 2
曾畑系土器 4
阿高系土器 2
磨消縄文土器 2
縄文時代末期の土器 2
黒曜石の原石 1
石斧 2
打製石鏃 7
剥片鏃 5
石錐 2
刃器 6
- 金剛島遺跡（伊万里市黒川町）

- 曾畑系土器 15
- 坂の下遺跡（西松浦郡西有田町）
無文完形土器 1
口縁部各種文様土器 14
磨消縄文土器 2
土器底部 2
補修孔を有する土器 3
輪積技法の痕跡を有する土器 2
朱塗り土器 1
注口土器 1
土器の把手部分 6
土錘 1
紡錘車形土製品 5
底部に圧痕を有する土器 4
クジラの脊椎 1
黒曜石製石核 6
剥片鏃 4
打製石鏃 20
石匙 1
石斧 2
- 源平岩洞穴遺跡（伊万里市黒川町）
縄文時代後期の土器 1
縄文時代晩期の土器 5
石斧 1
スリ石 2

考 古 (弥生時代)

○戦場ヶ谷遺跡 (神埼郡東脊振村)

弥生時代前期の土器 1

○土生遺跡 (小城郡三日月町)

弥生時代中期の壺 2

炭化米 3

抉入石斧 2

石 戈 1

土 彈 3

平鍬と柄 1

二 叉 鍬 1

○県内各地出土の石庖丁 3

○椛島山遺跡 (杵島郡北方町)

筒 形 土 器 1

内 行 花 文 鏡 1

方 格 規 矩 鏡 1

素 環 頭 刀 子 1

首飾 (勾玉, 管玉) 1

○東宮裾遺跡 (杵島郡北方町)

巴 形 銅 器 3

碧 玉 製 管 玉 14

○横田遺跡 (神埼郡東脊振村)

方 格 規 矩 鏡 1

素 環 頭 太 刀 1

鉄 劍 1

○大友遺跡 (東松浦郡呼子町)

小 児 用 壺 棺 1

差 合 甕 棺 1

口 縁 部 欠 き 取 壺 棺 1

小 形 壺 2

イモ貝製貝釧 17

ゴホウラ貝製貝釧 6

オオツタノハ貝製貝釧 21

貝 製 胸 飾 1

古墳時代

1. 本川原遺跡 (鳥栖市永吉町)

器 台 1

壺 2

壺 3

脚 付 壺 1

埴 1

鍋形土器 1

鉢形 " 2

甕形土器 2

壺 4

祭祀遺物

壺 4

壺 3

器 台 2

勾 玉 5

玉 1

鏡 5

2. 久蘇遺跡 (小城郡三日月町)

3. 熊本山石棺内出土遺物(佐賀市久保泉町)

短 甲	1
鏡 (四獸鏡)	1
鏝	1
紡垂車	2
小 玉	一連
管 玉	"
大 刀	2
劍	3

4. 杵路寺古墳出土遺物 (伊万里市二里町)

鏡 (三角縁神獸鏡)	1
鉦	1
鉄 劍	4

5. 関行丸古墳出土遺物 (佐賀市久保泉町)

鏡 (方格規矩鏡)	1
(変形文鏡)	1
(珠文鏡)	2
刀 子	5
鉄 鏝	2
帶 金 具	
鉸 具	2
三 環 鈴	1
勾 玉	1
小 玉	2 連
丸 玉	1 "
管 玉	1 "

6. 子持勾玉 烏栖市袖比町

7. 伊勢山遺跡出土遺物 (三養基郡基山町)

高 坏	2
脚 付 琬	1

琬 2

壺 1

こし器 1

祭祀遺物

器 台 4

壺 1

琬 4

鏡 2

鈴 1

玉 4

勾 玉 2

滑石製有孔円板 10

" 勾玉 2

" 白玉 2 連

炭化米

8. 脚付子持壺 烏栖市袖比町

9. 円筒埴輪 1 庚申堂古墳出土 烏栖市

" 2 岡寺古墳出土 烏栖市

10. 花納丸古墳出土遺物 (佐賀市久保泉町)

鏡 (変形文鏡) 1

三 環 鈴 1

管 玉 2 連

草場佩川古記録 1 卷

11. 勇猛寺古墳出土遺物 (杵島郡北方町)

く つ わ 1

辻 金 具 1

鏝 11

刀 子 1

劍 1

鉄 斧 2

腕 釧	3
丸 玉	2連
小 玉	1連
管 玉	1連
勾 玉	4

12. 東十郎古墳群出土遺物 (烏栖市神辺町)

甕	1
長頸壺	3
短頸壺	2
蓋付坏	2
高 坏	1
台付壺	2
台付長頸壺	1
三耳壺	1
双耳壺	1
臙	3
平 瓶	4
くつわ	1
鉄 鍬	22
鐔	2
把 頭	1
刀 子	6
鉄 滓	3
鎌	2
斧	1
あてびし	1
たがね	1
鋏	1
耳 環	4
腕 釧	1
丸 玉	2連
小 玉	2連
管 玉	1連

切子玉

13. 太田古墳石室模型	1
14. 線刻画 (北方町永池古墳)	1
15. 仏法堤経塚出土品 杵島郡大町町	
鑄銅製経筒	1
滑石製外筒	1
16. 山崎経塚出土品 (多久市多久町)	
鑄銅製経筒	1
陶製外筒	1
和 鏡	1
小 玉	
17. セセリ谷経塚出土品 (東松浦郡相知町)	
銅板製経筒	1
写 経	
滑石製外筒	1
18. 脊振山経塚出土品 (神埼郡東脊振村)	
鑄銅製経筒	4
和 鏡	4
19. 国分寺跡 (佐賀郡大和町)	
複弁八葉蓮華文軒丸瓦	2
均整唐草文軒平瓦	2
20. 寺浦廃寺跡 (小城郡小城町)	
単弁八葉蓮華文軒丸瓦	1
重弧文軒平瓦	1

歴史・美術・工芸展示（3号展示室）

歴史部門

1. 近世什器資料 (14)点

桐菊紋什器一式

角盥棟一具、柄杓子、柄桶、水桶、湯桶、盥

2. 幕末資料 (6)点

海軍伝習所絵図、 凌風丸図

長崎港鳥瞰図、 蒸気車、蒸気船雛形

3. 幕末維新先哲者書画 (11)点

草場佩川筆 竹図屏風1双

草場佩川筆 花卉図屏風1隻

〃 松、竹、梅図自画賛 3幅

鍋島直正筆 先天下云々七言二行書1幅

武富圮南筆 古梅図自画賛 1幅

佐野常民筆 嗚呼云々三行書 1幅

谷口藍田筆 秋潤云々七言絶句三行書

1幅

副島種臣筆 必得云々三行書 1幅

美術

作品名	制作年	作者名
御所車		川村 清雄
朝日（小城高校蔵）	1910	青木 繁
佐賀風景	1910	青木 繁
緋月帰舟	1910	青木 繁
神話		青木 繁
夕焼けの海	1910	青木 繁
ランプ		青木 繁
木下秀康大尉像	1909	青木 繁
花野	1917	岡田三郎助
若き娘の顔（佐賀大学蔵）		岡田三郎助
少女（房州海岸にて）	1893	小代 為重
林檎拾い	1891	久米桂一郎

マンドリンを持つ少女		百武 兼行
老婦人像		百武 兼行
母と子（有田工業高校蔵）	1878	百武 兼行
蛙		伝、高橋由一
台湾娘（佐賀大学蔵）		藤島 武二
裸婦		藤島 武二
桜馬場風景		高木 背水
風景	1941	高木 背水
静物		古賀 春江
婦人像（佐賀大学蔵）		斎藤 与里
衣を与う（佐賀大学蔵）		海老原喜之助
H嬢像（佐賀大学蔵）		中西 利雄

工芸

古唐津系

1. 叩き手胎釉壺 16C後桃山初 飯胴裂窯

古唐津系

2. 絵唐津水指 江戸前期

柿右衛門系

3. 色絵岩牡丹文壺 江戸前期

柿右衛門系

4. 色絵面取菊牡丹文瓶 江戸中期

武雄古唐津 南部系

5. 象嵌文鉢 江戸初期 庭木窯

武雄古唐津南部系

6. 雲鶴象嵌文鉢 江戸初期 庭木窯

- 古伊万里系
7. 染付芙蓉手花籠図大鉢 江戸中期
古伊万里系
 8. 染錦花籠図大鉢
古伊万里系
 9. 染付芙蓉手大鉢
 10. 染錦美人桜閣図大鉢
 11. 染付網目文鉢

12. 染付草花文皿 江戸中期 藩窯
古伊万里系
13. 色絵鬘斗牡丹蝶文八角深鉢 江戸中期
14. 色絵笹文皿 江戸中期 藩窯
15. 染付鍋島藩窯絵図大皿 江戸末期
16. 染付五十三次図大皿 江戸後期
17. 染付万国地圖大皿 江戸末期
18. 染付日本國地圖大皿 江戸末期

2. 企 画 展

(1) 佐賀美術協会展

主 催 佐賀美術協会
佐賀県教育委員会
佐賀県立博物館

会 期 昭和50年5月21日～5月25日

会 場 3. 大展示室

観 覧 料 常設展併設（常設展料金含む）

展示概況 日本画、洋画、彫塑、工芸の4部門にわたって一般公募を行い、その入選作と会員作品を合わせて214点展観した。

出品目録 （受賞作、会員作のみ）

日 本 画

氏 名	出 身	命 題	賞
中野 澄子	有 田	菊	美 協 賞
西岡 一義	久保田	初夏の林道	佳 作 賞 教育委員 会賞
多久竜太郎	鹿 島	沼の夏	教育委員 会賞

彫 塑

山崎 恵一	佐 賀	柳川の女	知 事 賞
佐々木和正	"	女の首	佳 作 賞 教育委員 会賞
松尾 浩二	"	M子の首	教育委員 会賞

工 芸

佐藤 走波	有 田	青磁花文深鉢	知 事 賞
添田 和信	嬉 野	鉄絵文壺	佳 作 賞
東島 広義	武 雄	峽魂	佳 作
中島 均	西川登	辰砂彫文花瓶	美 協 賞

大園万里子	佐 賀	時の影	文 化 会 賞
-------	-----	-----	------------

洋 画

大宝耕太郎	佐 賀	バラ	佳 作 賞
杉光 定	鹿 島	沈 (1)	山口亮一賞 教育委員 会賞
蒲原 伸子	佐 賀	誕生X	佳 作 賞
大宅 富夫	有 田	養 鶏	佳 作 賞
小杉 道久	佐 賀	ある瞑想 ある日の 印象(3)	市 長 賞
下村 康二	鹿 島		美協特賞
中尾 和紀	三日月	楽 I	知 事 賞
永田 秀孝	多 久	雪	武 藤 賞
大石 恵三	鳥 栖	零 時 興福寺 (五重塔)	県議長賞
田代 博己	佐 賀		佳 作 賞
梶田 祥子	"	とおい三月	高 柳 賞

会員作品

日 本 画

氏 名	命 題
中山 勲	裸 婦
納 富 未 由	水 門

岩 永 京 吉	椎 若 葉
川 浪 養 治	暖 冬
諸 田 和 彦	潮 汐

洋 画

氏 名	命 題
吉 田 進 一	卓上静物
百 武 浩 寛	部屋の一隅
山 口 孝 行	寒梅呼春
秀 島 達 朗	卓上静物
土 師 一 也	高崎山風景
緒 方 保 男	議 事 堂
深 草 廣 平	草 原
古 川 誠 逸	芍 薬 図
牟田口 貞 夫	風 景
菊 地 義 泰	花 壘 り
山 口 勝	少 女
牛 島 陽二郎	コロセウム
松 林 清 次	田園の詩
浦 原 密 雄	サボテン
鶴 義 男	ホルソのある静物
竹 下 泰 彦	晩秋の田園
宮 崎 繁 樹	新緑の山
江 口 孝 徳	白石道路
北 島 兵 一	玄海立神岩
光 武 洋	皮相な観察者たち
音 成 三 男	有 明
宮 地 亨	鳩
大 串 純 子	アパーティーン
田 中 連 蔵	瀬戸内風景
坂 田 昭 雄	子どもと鳩
乗 田 貞 勝	廃 船
真 崎 団 造	桃花の咲く山麓
成 富 鮎 子	壁 画
永 原 美 朗	昼 と 夜
副 島 行 高	七山湿地帯
杉 本 好 守	パリの少女
杉 本 弘 子	サクレクール寺院

氏 名	建 物
野 中 勝 正	宝珠 (観世音持国天)
深 川 善 次	長 崎
藤 田 秀 穂	住 の 江
江 口 明	古梅爛漫
水 落 光 博	春
中 原 儀四郎	ぼろ屋
岡 本 留 雄	振りかえる人
山 田 比古太	むつごろう
富 崎 長太郎	普賢菩薩
平 川 経 高	風 景
岩 永 光 正	グラバー邸
田 崎 馬 三	幽 玄
山 本 達 也	家 族
金 子 剛	愛子の牛
大久保 孝 夫	雪 あ そ
吉 田 昭 彦	教 会
古 賀 和 夫	魚 槽
多久島 敏 明	高原風景九重山波
若 林 景 光	桜 島
筒 井 茂 雄	緑のパイプ
真 子 達 夫	枯 花
汐 待 和 子	面
太 田 啓 子	絵 馬
福 成 良 男	朝 市74-2 74-3
毛 藤 忠	楠
古 賀 昭 雄	告
小 杉 装 太	窓
久 富 邦 夫	凧と子どもたち
高 柳 博	

彫 塑			小 野 珀 子		
南 博 久	トルソ		泉 有	釉裏金彩青釉鉢	角 壺
古 賀 義 治	裸 婦		鶴 丸 慶 子	型絵染帯 (早春)	
武 藤 三 男	少 女		相 川 紀 子	型絵染 (はな)	
古 田 義 文	朝 風		齊 藤 勉	染 付 壺	
増 富 彰 子	裸 婦		松 尾 次 郎	陶 板	
山 本 民 二	献眼慰霊モニュマン		樋 渡 陶 六	青白磁花籠	
成 富 宏	女		田 口 テ ル	蔓 草 文	
工 芸			草 場 正 人	雀 園 瓶	
辻 貞 雄	円 想		中 村 清 見	白磁花瓶	
辻 毅 彦	旋 律		城 秀 男	作 品	
井 上 萬 二	白磁爪型壺		宮 尾 正 隆	輪	
丸 田 正 美	刷毛目流し文陶鉢		田 中 一	応 波	
			江 口 勝 美	藤花彫文鉢	

(2) 化石と進化展

主 催	佐賀県立博物館 朝日新聞西部本社 国立科学博物館
会 期	昭和50年6月1日～22日
会 場	佐賀県立博物館、2・3・大展示室
観 覧 料	個 人 大人 200円、大高生 150円、中小生 100円 団 体 大人 150円、大高生 100円、中小生 50円
図 録	カラー84P、頒価 600円

展示概況

- 1、地層の中に跡をたどる。
- 2、電顕下にみる化石の驚異。
- 3、頭足類の進化をさぐる。
- 4、植物の進化をみる。
- 5、脊椎動物の進化。
- 6、人類の進化。

上記する項目で、大小の化石約 500点を展示し、レプリカのフタバズキリュウや、パラサウロ。

ロクス、デイニクチスなどの大形標本は特に注目される展示であった。

また特別に佐賀会場だけに出陳された「月の石」は説明のための背景パネルとともに効果的展示で、来観者の人気を呼んだ。

好天気めぐまれ30,964名が入場し、とくに中小生が多かった。

(3) ドレスデン、古伊万里名品展

主催 ドレスデン国立美術館、佐賀県、佐賀県教育委員会、西日本新聞社
後援 外務省、文化庁、ドイツ民主共和国文化省、佐賀県有田町、ドイツ民主共和国駐日大使館、日本D D R経済委員会
会期 7月2日～8月6日
会場 佐賀県立博物館
観覧料 大人 300円、大高生 200円、小中生 100円
講演会 日時 7月8日
会場 佐賀県立博物館大展示室
演題 “マイセン窯の成立について”
講師 前川誠郎（東京大学教授）

図録 2,000円

展示概況 日本とドイツ民主共和国との間に国交が樹立したのを記念して、佐賀をはじめ全国5会場で開催された。

ドレスデン国立美術館は、絵画、彫刻、陶磁館などからなるヨーロッパ屈指の総合美術館で、この展覧会に出品される古伊万里の名品の数々は、いまから約250年前、長崎から、大量に輸出され、ドレスデン陶磁美術館に所蔵されているものの中から156点を選んで展示するいわば“里帰り展”である。

36日間で31,406の観覧者を得、古伊万里ブームをよび起こすほどの人気であった。

出品点数 古伊万里系 155点
中国製色絵磁器 1点
柿右衛門系 20点
マイセン窯磁器 24点
参考資料 2点

(4) 勤労者美術展

主催 佐賀県、佐賀県立博物館
後援 佐賀県教育委員会、佐賀市、佐賀県労働者福祉協議会
会期 8月30日(土)～9月7日(日)

会 場 佐賀県立博物館 大展示室

観 覧 料 無 料

展示概況 勤労生活の中から創作された作品を広く展示して、勤労者の芸術意欲を高揚し、文化的教養の向上と余暇善用の健全化を図ることを目的とした展覧会である。

出品者にも資格があり、全く勤労者を対象としている。

内容も絵画、写真、書、工芸と幅広く年々質も向上している。

出品点数 絵画 83点

写真 79点

書道 31点

工芸 21点

合計 214点

(5) 理科作品展、佐賀市支部展

主 催 佐賀県立博物館、佐賀県理科教育振興会佐賀市支部

会 期 昭和50年 9月14日～17日

会 場 佐賀県立博物館大展示室

観 覧 料 無 料

展示概況 動、植物、昆虫、岩石鉱物および理科的創作物、研究物等

出品点数 小学校 127点

中学校 54点

計 181点

入 選 数 小学校 41点

中学校 19点

計 60点

理科作品展、佐賀県展

主 催 佐賀県立博物館

会 期 昭和50年 9月19日～25日

観 覧 料 無 料

会 場 佐賀県立博物館大展示室

展示概況 県展も支部展と同内容

出品点数 小学校 147点

中学校 80点

高校 10点

	合計	237点
特選数	小学校	26点
	中学校	23点
	高校	7点
	合計	56点
佳作数		135点

(6) 九州沖縄グラフィックデザイン展

主催	九州沖縄各県、福岡市、北九州市及び同教育委員会、佐賀県立博物館	
後援	文化庁、文化団体、各報道機関	
会期	9月26日～10月1日	
会場	佐賀県立博物館大展示室	
観覧料	無料	
図録	300円	

展示概況 九州沖縄各県広域文化の向上発展と相互の交流のための一環である。

現在、第1線で活躍するグラフィックデザイナー招待作家による作品50点と、一般公募入選作品100点を展示し、グラフィックデザイン界の発展に寄与するものである。

この展覧会は、デザイナーの登龍門となっている。5日間で1,232名の観覧者を得、回を重ねるごとに、内容も充実してきた。

出品点数	招待出品	50点
	一般公募	100点
	合計	150点

(7) 肥前の仏教美術展

主催	佐賀県立博物館	
会期	昭和50年10月10日～11月9日	
会場	1号、2号、3号、大展示室	
観覧料	個人	
	大人 200円	大高生 150円 中小生 100円
講演会	団体	
	大人 150円	大高生 80円 中小生 40円
講演会	1. 日時	昭和50年10月25日
	会場	佐賀県立博物館中展示室
	演題	大陸文化と肥前の仏教文化の交流

- 講師 九州大学文学部助教授 平田寛
2. 日時 昭和50年11月1日
会場 佐賀県立博物館中展示室
演題 肥前の石仏について
講師 佐賀県文化財調査監 木下之治
3. 日時 昭和50年11月8日
会場 佐賀県立博物館中展示室
演題 肥前の高僧をめぐる
講師 多久市立南部小教諭 北島治慶

図録 肥前の仏教美術 全 200頁、うち写真90頁 1,300円

展示概況 仏教は、わが国に伝えられて以来、日本の文化の形成と発展に大きな役割をはたすとともに、その信仰は日常生活に密着して、今日までなお生き続けている。

肥前の仏教文化は奈良時代の寺院建立にはじまり、仏教思想の展開とともに仏教美術は多様になり、すぐれた彫像、絵画、工芸品等を生んだ。中世における大陸との交流は、高麗、李朝の仏教美術を多く請来させ、また近世における石仏をはじめとする石造美術の独自の発達、肥前の仏教文化を特徴づけている。一方、肥前の生んだ高僧には、新義真言宗の開祖覚鑿上人をはじめ、日本の仏教史上に大きな役割をはたした人々が多い。

当館では、これ等の仏教遺品を、考古、工芸、高僧、絵画、彫刻、石造物の6部門から肥前の仏教美術のほぼ全領域にわたって概括し紹介した。なかでも高僧等の紹介は、これまでに初めての試みであり、秘仏などの初公開の仏像や修理後初公開の楊柳観音像図など観覧者を魅了するものが多かった。

出品総数 290点で、うち重要文化財指定23点、県重要文化財指定20点など、国、県指定のものは殆ど展覧された。入館者数10,140名であった。

「肥前の仏教美術展」出品目録

番号	指定	品名	規格	数量	時代	出品者	備考(銘)
○古瓦							
1		塔ノ塚廃寺 単弁八葉蓮華文軒丸瓦	径15.2寸(14.7寸)	2	奈良	祐徳博物館	
2		大願寺 単弁八葉蓮華文軒丸瓦	径 20.2	2	"	健福寺(大和町)	
3		寺浦廃寺 単弁八葉蓮華文軒丸瓦	" 19.5	1	"	佐賀県教育委員会	
		" 三重弧文軒平瓦	" 40.0	1	"	"	
		" 複弁八葉蓮華文軒丸瓦	" 18.2	1	"	"	
		" 偏行唐草文軒丸瓦	" 31.2	1	"	小城高校	
4		肥前国分寺 複弁八葉蓮華文軒丸瓦	" 17.2	2	"	佐賀県教育委員会	
		" 均整唐草文軒平瓦	" 24.0	1	"	"	
		" 鬼瓦		1	"	大和町教育委員会	
5		辛上廃寺 均整唐草文軒平瓦	" 17.5	1	"	七田忠志(神埼町)	

		" 複製軒丸瓦	" 19.5	1	奈良末~平安	"	
6		東妙寺 東妙寺銘軒丸瓦	内区径13.0	1	鎌倉	祐徳博物館	
○経筒							
1	県重文	仏法堤経塚出土品 鋳銅製経筒	高 30.0	1	平安	大町郷土研究会	嘉保三年(1096)
		" 滑石製外筒	" 37.5	1	"	"	
2	県重文	山崎経塚出土品 鋳銅製経筒	" 26.8	1	"	佐賀県立博物館	天治元年(1124)
		" 陶製外筒	" 29.0	1	"	"	
		" ガラス玉		85	"	"	
		" 炭化物		1	"	"	
3	県重文	セセリ谷経塚出土品 銅板製経筒	" 25.5	1	"	"	
		" 滑石製外筒	" 37.5	1	"	"	
		" 経文	24.8×34.5	1	"	"	天永三年(1112)
4		吞振山経塚出土品 鋳銅製経筒		4	"	"	康治元年(1142)
		" (1号~4号まで)					
		" 鏡		4	"	"	
5		牛ノ谷経塚出土品 鋳銅製経筒	高 30.3	1	"	祐徳博物館	
		" 白磁盒子		1	"	"	
6		片山1号経塚出土品 銅板製経筒	" 24.2	1	"	"	
		" 陶製外筒	" 28.8	1	"	"	
7		片山2号経塚出土品 滑石製経筒	" 39.3	1	"	"	
8		鏡神社甲経塚出土品 四段楕上式銅製経筒	" 39.4	1	"	鏡神社(唐津市)	
		" 陶製外筒	" 41.8	1	"	" (")	
9		鏡神社乙経塚出土品 陶製経筒	" 28.0	1	"	" (")	
		" 胡州鏡	径 11.0	3	"	" (")	
		" 盒子	高 4.5	2	"	" (")	
10		千々賀経塚出土品 銅板製経筒	" 25.0	1	"	正円寺(唐津市)	
		" 滑石製外筒	" 33.0	1	"	" (")	
		" 和鏡	径 10.7	1	"	" (")	
11		庵主経塚出土品 鋳銅製経筒	高 31.2	1	"	志田原一馬	
		" 陶製外筒	" 31.3	1	"	"	(浜玉町)
		" 鉄刀	長19幅1.6	1	"	"	
12		崇判山経塚出土品 鋳銅製経筒	高27.1	1	"	真鍋政治郎	
						(北方町)	
○高僧							
1		木像 覚鑿上人坐像	高 66.0	1軀	室町	常在寺(塩田町)	応永31年(1424)
2		絹本着色 覚鑿上人像	110.6×78.2	1幅	鎌倉	長谷寺(奈良県)	
3		木造 神子禪師坐像	高 113.0	1軀	"	朝日寺(福岡県)	嘉元2年(1304) 永正9年(1513)修補
4		絹本着色 神子禪師像	104.0×57.2	1幅	江戸	万寿寺(大和町)	
5		開山行業記 明林是球筆	30.5×39.3	1巻	桃山	万寿寺(大和町)	慶長7年(1602)写
6	重文	絹本着色 聖一国師像	165.0×98.0	1幅	鎌倉	東福寺(京都府)	弘安2年(1279)貸
7	"	聖一国師墨跡 常楽庵規式	34.8×53.8	1 "	"	" (")	弘安3年(1280)
8		聖一国師 銀欄御袈裟	107.0×215.0 ×253.0	1領	"	広福護国禪寺	
						(武雄市)	
9	重文	木像 円鑑禪師坐像	高 85.0	1軀	"	高城寺(大和町)	正安2年(1300)願文
10	"	絹本着色 円鑑禪師像 明兆筆	80.2×40.5	1幅	南北朝	永明院(京都府)	
11		円鑑禪師墨跡	28.5×41.5	1 "	鎌倉	" (")	徳治2年(1307)
12		絹本着画 円鑑禪師賛 普賢菩薩像	74.0×37.0	1 "	"	" (")	徳治2年(1307)貸
13	重文	圓山一叢墨跡 清源寺家訓	29.2×177.6	1巻	南北朝	光明院(京都府)	観応3年(1352)
14		圓山一叢墨跡	31.8×123.5	1幅	"	永明院(")	延文元年(1356)
15		木造 日親上人坐像	高 29.5	1軀	室町	法蓮寺(唐津市)	文明16年(1484) 日祇作

16		日親遺告 十方微塵抄	26.6×36.7	1幅	" "	光勝寺(小城町)	永享12年(1440)
17		紙本墨書 日親筆 十界勸請大曼荼羅	116.3×56.2	1 "	" "	" (")	永享12年(1440)
18		明琳是琢筆 朝鮮役従軍日記	17.5×240.0	1卷	桃 山	泰長院(佐賀市)	文祿2年(1593)
19		是琢筆 回向本		1脚	" "	万寿寺(大和町)	慶長11年(1606)
20		是琢筆 回向本		1冊	" "	" (")	
21		絹本着色 閑室元信自賛像	135.5×54.2	1幅	江 戸	三岳寺(小城町)	慶長17年(1612)賛
22		和綴木板摺 唐太宗李衛公問對	27.0×19.4	1冊	" "	北島治慶(多久市)	慶長11年(1606)書 寛文4年(1664)版
23		閑室元信墨蹟 (1)	33.0×49.0	1面	" "	佐賀県立図書館	3月23日
		" (2)	33.0×49.0	1 "	" "	" "	7月5日
		" (3)	34.0×52.0	1 "	" "	" "	12月3日
24		絹本着色 潮音道海自賛像	106.0×46.5	1幅	" "	真照寺(小城町)	元和元年(1681) 喜多元規筆
25		潮音墨蹟	133.0×28.0	3 "	" "	緑樹院潮音舎 (京都府)	黒瀧潮音
26		" 「薦祖母慈山禪尼」	24.2×50.7	1 "	" "	" (京都府)	
27		木造 湛然梁重坐像	高 59.0	1軀	" "	通天寺(大和町)	天祐月枝作
28		紙本着色 湛然和尚開眼十王絵圖	115.5×49.0	2幅	" "	高伝寺(佐賀市)	寛文7年(1667)奉納
29		化森道寛墨蹟	23.6×35.0	1 "	" "	富岡フミ(佐賀市)	甘露化森
30		大潮元皓墨蹟	27.2×45.5	1面	" "	内山守人(伊万里市)	甘露大潮
31		" "	29.1×34.5	1幅	江 戸	富岡フミ(佐賀市)	甘露八十三翁
32		扁額 木庵筆 瑞光殿		1面	" "	三岳寺(小城町)	延宝甲寅(1674)書
		" 即非筆 医王山	85.0×193.0	1 "	" "	" (")	元禄12(1699)書捨
33		聯額 即非筆 洞明……		1 "	" "	" (")	元禄15(1702)書捨
		" " 東刹……		1 "	" "	" (")	" "
○ 工芸							
1	県重文	水上懸仏	径 37.0	1面	鎌 倉	大和町水上部落	文永8年(1271)
2	長崎県 重 文	笥瀬免懸仏	" 25.0	1 "	" "	松柳隆美(長崎県)	正応4年(1291)
3		高野免懸仏	" 34.3	1 "	室 町	宮本一男(")	天文4年(1535)
4		潮見神社懸仏	" 24.5	1 "	江 戸	潮見神社(武雄市)	元禄5年(1692)
5	重 文	大平六年銘銅鐘(朝鮮鐘)	高73.0径51.4	1口	高 麗	恵日寺(唐津市)	太平6年(1026)
6	"	建久七年銘銅鐘(和鐘)	" 84.0" 47.0	1 "	鎌 倉	健福寺(大和町)	建久7年(1196)
7	県重文	永和二年銘銅鐘(肥前鐘)	" 83.0" 49.5	1 "	南北朝	医王寺(相知町)	永和2年(1376)
8		肥前新鐘谷口系(半鐘)	" 39.9" 32.8	1 "	江 戸	永寿寺(嬉野町)	元禄2年(1689)
9		" " (")	" 66.0" 39.5	1 "	" "	円蔵院(佐賀市)	明和9年(1772)
10		" " (")	" 54.2" 33.8	1 "	" "	修学院(東春振村)	享和元年(1801)
11		" 植木系(")	" 77.0" 45.5	1 "	" "	福満寺(佐賀市)	寛文5年(1665)
12		肥前古鐘銘張合せ屏風		六曲 一隻	" "	鍋島報效会 (佐賀市)	
13	長崎県 重 文	鑄口	径 30.0	1口	南北朝	善福寺(長崎県)	天平10年(1335)
14		"	" 18.4	1 "	室 町	東楽寺(有明町)	庚正3年(1457)
15		肥前鑄口	径 23.7	1口	江 戸	宝光院(諸富町)	延宝3年(1675)
16		"	" 52.0	1 "	" "	妙海寺(多久市)	元禄15年(1702)
17	県重文	戒体箱	15.5×37.0 ×16.0	1合	室 町	実相院(大和町)	天文元年(1532)
18	"	居箱	29.0×36.0 ×12.5	2 "	" "	" (")	" "
19		如意	全長51.5 雲形17.3×25.0	1柄	" "	" (")	
20		四天王五鈷鈴	高22.8径 6.5	1箇	唐	誕生院(鹿島市)	
21		銅鐸鈴	" 27.0" 13.6	1 "	室 町	円通寺(小城町)	享徳2年(1453)
22		青銅鈺	" 6.4 " 17.6	9 "	室 町	天山神社(厳木町)	宝徳元年(1449)

		"	"	"	2 "	"	"	天正16年(1588)
23		密教法具			一式 (49点)		修学院(東脊振村)	
○絵画								
1	重文	絹本着色 楊柳観音像	419.5×254.2	1幅	高麗	鏡神社(唐津市)	明德2年(1391)寄進	
2		" "	114.3×63.7	1 "	李朝	広福護国禪寺 (武雄市)		
3		" 阿弥陀八大菩薩像	153.5×86.5	1 "	高麗	" (")		
4	重文	" 仏涅槃図	285.0×237.5	1 "	李朝	最教寺(長崎県)		
5		" 善賤童子歴参図	105.8×59.0	1 "	"	広福護国禪寺 (武雄市)		
6		" 釈迦三尊及び比丘像	168.8×57.3	1 "	"	" (")		
7	県重文	" 八字文殊菩薩騎獅像	91.3×36.5	1 "	南北朝	誕生院(鹿島市)		
8	"	" 普賢延命菩薩騎獅像	123.0×79.0	1 "	室町	実相院(大和町)		
9		" 十六羅漢図	115.6×51.2	2 "	"	広福護国禪寺 (武雄市)		
10		" 十王絵図	84.0×35.5	2 "	"	万寿寺(大和町)		
11		" 山越阿弥陀像	114.5×101.0	1 "	"	大覚寺(佐賀市)		
12		紙本摺本 十六羅漢図	115.0×49.6	2 "	江戸	竜泉寺(鎮西町)		
13		鬼子母神像摺本及び版木	35.5×15.0	1 "	"	本行寺(佐賀市)	寛政4年(1792)	
14		板絵梵字曼荼羅図	27.0×25.0	1面	南北朝	石塔院(三田川町)		
15		(参考)法隆寺金堂六号壁画阿弥陀三尊 図模写					明治三十年 大塚榛山写	
		紙本着色 (1)阿弥陀如来像	178.0×115.0	1幅		佐賀県立博物館		
		" (2)観音菩薩像	195.0×74.0	1 "		"		
		" (3)勢至菩薩像	"	1 "		"		
16	県重文	紙本墨画淡彩 東妙寺古図	89.5×139.0	1 "	室町	東妙寺(三田川町)		
17		絹本着色 福満寺伽藍配置絵図	149.0×48.0	1 "	"	福満寺(佐賀市)		
18		" 金立神社縁起図	181.0×107.0	1 "	江戸	金立神社(佐賀市)		
○写経								
1	県重文	紙本墨書 大般若経 断簡	25.3×51.5	2巻	平安	正法寺(佐賀市)	東大寺正藏院本	
2		紺紙金字 妙法蓮華経	31.9×10.9	6 "	高麗		至元6年(1346)	
3		紺紙銀字 "	31.8×10.8	8 "	"			
4	重文	紙本墨書 梵網経 懷良親王筆	120.0×1077.0	1 "	南北朝	東妙寺(三田川町)	天授4年(1378)	
5		" 大般若経	23.7×9.0	10 "	"	玉林寺(大和町)	正平25年(1372)	
○木彫								
1	重文	木造 多聞天立像	高 146.0	1軀	平安	大興善寺(基山町)		
2	"	" 薬師如来座像	" 89.1	1 "	"	東光寺(玄海町)		
3	"	" 聖観音立像	" 107.0	1 "	"	東妙寺(三田川町)		
4	"	" 不動明王及二童子像						
		(1)不動明王	高 88.2	1 "	"	永寿寺(嬉野町)		
		(2)製吒迦童子	" 105.9	1 "	"	" (")		
		(3)矜羯羅童子	" 104.2	1 "	"	" (")		
5	重文	木造 帝釈天立像	" 117.0	1 "	"	常福寺(牛津町)		
6	"	" 菩薩立像	" 148.0	1 "	"	殿原寺(浜玉町)		
7	"	" 如来形立像	高 108.0	1 "	"	華藏寺(伊万里市)		
8	"	" 天部形立像	" 100.5	1 "	"	三学寺(久保田町)		
9	"	" 薬師如来立像	" 137.5	1 "	"	医玉寺(相知町)		
10	重文	" 釈迦如来坐像	" 111.0	1 "	鎌倉	東妙寺(三田川町)		
11	"	" 普賢延命菩薩騎象像	" 71.1	1 "	"	竜田寺(佐賀市)	正中3年(1326) 康俊作	
12	"	" 四天王立像						
		(1)持国天	高 138.8	1 "	"	広福護国禪寺 (武雄市)		

		(2)増長天	"	138.3	1	"	"	
		(3)広目天	"	134.5	1	"	"	
		(4)多聞天	"	136.5	1	"	"	
13	県重文	木造 薬師如来坐像	"	102.0	1	"	薬師堂(神埼町)	
14		" 阿弥陀如来坐像	"	36.0	1	"	三学寺(久保田町)	文保2年(1318)
15		" 薬師如来坐像	"	53.5	1	"	室町 法幢寺(唐津市)	文禄4年(1595)
16	県重文	" 菩薩立像						
		(1)日光菩薩立像	高	105.0	1	"	薬師堂(神埼町)	
		(2)月光菩薩立像	"	105.0	1	"	"	
17		" 菩薩立像						
		(1)日光菩薩	高	53.0	1	"	歓喜寺(北方町)	
		(2)月光菩薩	"	53.0	1	"	"	
18		木造 毘沙門天立像	"	110.0	1	"	本行寺(佐賀市)	
19		" "	"	74.0	1	"	修学院(東脊振村)	天正17年(1589)
20	県重文	銅造 薬師如来立像	"	55.0	1	"	平安 歓喜寺(北方町)	承安2年(1172)
21	長崎県 重文	" 如来坐像	"	78.0	1	"	高麗 釈迦堂(長崎県)	
22		" 如来形坐像	"	34.5	1	"	李朝 淨泰寺(唐津市)	
(付)		木彫 大黒天立像	"	41.5	1	"	江戸 内山守人(伊万里市)	
		" "	"	61.0	1	"	"	
○石彫								
1		石造 線彫地藏菩薩像	高	66.0	1	"	室町 筒井勝(塩田町)	応永29年(1422)
2		" 線刻六地藏塔	"	143.0	1	"	" 永福寺(牛津町)	
3		" 線刻六仏六地藏塔			1	"	" 鍋島報効会	天文4年(1535)
4		" 四天王像	"	18.0	1	"	" 妙覚寺(多久市)	
5		" 普賢菩薩騎象像	"	80.0	1	"	江戸 玉林寺(大和町)	
6		" 文珠菩薩騎象像	"	69.0	1	"	" 永福寺(牛津町)	
7		" 観音思惟坐像	"	38.0	1	"	"	
8		" 観音菩薩坐像	"	71.0	1	"	" 妙雲寺(三田川町)	
9		" 馬頭観世音菩薩坐像	"	65.0	1	"	" 江副カヅ(大和町)	
10		" 大黒天立像	"	61.0	1	"	" 笠原夷(牛津町)	
11		" えびす坐像	"	63.0	1	"	" 西ノ宮社(佐賀市)	
12		" 役行者坐像	"	94.0	1	"	" 塩田町鳥越部落	
13		" 弘法大師立像	"	77.0	1	"	" 岩松軒(佐賀市)	
14		" 開魔王坐像	"	73.0	1	"	" 福満寺(佐賀市)	
15		" 十六羅漢像			9	"	" 岩松軒(佐賀市)	
16		" 地藏菩薩立像	"	65.0	6	"	" 福満寺(佐賀市)	
17		" 庚申塔	"	123.0	1	"	" 城雲寺(佐賀市)	
18		" 二十三夜塔	"	178.0	1	"	" 妙見社(佐賀市)	
19		" 弁戩天石殿	"		1	"	" 西隈部落(佐賀市)	
20		" 線浮彫地藏尊菩薩像	"	49.0	1	"	室町 千葉大師堂 (北浅安町)	明徳2年(1391)
21		" 地藏尊像			1	"	江戸 清浄院(小城町)	
22		" 観音思惟坐像			1	"	" 高城寺(大和町)	
23		" 多聞天立像	"	125.0	1	"	" 玉林寺(大和町)	
24		" 増長天立像	"	125.0	1	"	"	

(総計 290点のうち国指定重要文化財23点、県指定重要文化財20点)

(8) 第25回佐賀県美術展

主催 佐賀県教育委員会、佐賀県立博物館

会期 昭和50年11月22日～11月30日

会 場 佐賀県立博物館1階ロビー、1、2、3号、大屋示室

観 覧 料 個人

大人 200円 大高生 150円 中小生 100円

団体

大人 150円 大高生 80円 中小生 40円

展示概況 県内在住者を対象に、例年どおり日本画、洋画、彫刻、工芸、書、写真、宣伝美術の七部門にわたって一般公募を行い、入選作に委嘱作品、審査員の作品を加えて展覧した。総点数 381点

出品目録 (受賞作、招待審査員出品のみ)

第1部 日本画

賞名	題	氏名					
佐賀新聞社賞	沢 渡	小柳 為次郎	招	待	喜 屋 武 岬	岩 永 京 吉	
佳 作	岩	松本 奈々子	"		裏 磐 梯	下 川 千 秋	
佐賀県知事賞 (無鑑査)	田 園 麗 春	吉 岡 香 雲	"		花 ご ざ	溝 口 京 子	
県展奨励賞	ま ん だ ら	古 川 正 叙	"		有 明 海	立 石 秀 春	
佳 作	陰 映	野 方 彰	"		白 い ポ ピ ー	市 丸 節 子	
佐賀美術協会賞	つ わ 露	寺 崎 つ ね 子					

第2部 洋画

県議会議長賞 (無鑑査)	海 からの風 (転生) (2月18日 ~6月25日)	山 田 直 行	佳	作	ふ た り	先 崎 民 憲	
N B C 賞	舞 う (寂)	川 本 達 也	招	待	無 心 に	大 西 正 昭	
佐賀市長賞	皮 相 な 観 察 者 No.8	光 武 洋	"		MON PETITE	杉 本 好 守	
佐賀県教育委員会賞	方 向	久 保 博 邦	"		天 主 堂 の 村	納 富 進	
サガテレビ賞	詩	野 副 秀 樹	"		筆 司 と 兜	吉 田 進 一	
佳 作	ある日の印象Ⅳ	下 村 康 二	"		裸 婦	深 川 善 次	
(無鑑査)	20才の原点	土 井 智 子	"		窓	久 富 邦 夫	
佐賀県造形教育研究会賞	灼熱に燃えて (その2)	成 富 鮎 子	"		水 田 に て	菊 池 義 泰	
佐賀新聞社賞	夜	上 滝 泰 嗣	"		女	山 口 勝	
県商工会議所 連合会長賞	神々の国々の間	杉 町 徹	"		石 垣	江 口 明	
県展奨励賞	お ん な	円 田 洋 子	"		村 落	松 林 清 次	
県展奨励賞	平和を祈る	山 口 善 平	"		冬 の 海	井 手 誠 一	
N H K 賞	キッチン (I)	光 岡 郁 子	"		魚 港	筒 井 茂 雄	
			"		山 の 水 田	兵 働 健 吾	

佐賀県議会議長賞 佐賀新聞社賞 読売新聞社賞	秋興の詩 高青邱の詩 紫の(仮名) 早交崖山 還太室作 邁(はげむ) 春の河 蘇東坡の詩	山口信行 古賀諒子 徳永万佐子 小副川まち子 寺田蒼玄 吉富孝喜 高尾浩正	佳作 招待 審査員	季賀の詩 禪語 菜根譚より 長嘯 「聞」による 山頭火の句	野中正陽 野田紫城 土肥春獄 山口流水 平川朴山 中村龍石
------------------------------	---	---	-----------------	--	--

第6部 写真

(無鑑査)	WINDOW	川原田盛人	県展奨励賞	初秋の阿蘇	岩尾久二郎
多久市長賞	26ばんめの秋	北島正行	県展奨励賞	かもめ	清水耕史
読売新聞社賞	冬のバス停	秋吉重信	招待	冬の海	宮崎宏
N H K 賞	今日・明日	山本和大	"	やきものの里	最所巖
文部大臣奨励賞 県展賞	霧雨	中島実	"	異邦人	古川公夫
佐賀新聞社賞	むつごろう	松本正弘	"	放浪の足音	百田正之
佳作	冬の詩	中島正	"	躍動	安永直一
佳作	寒い日	末次弘道	"	男と女	横尾尚
日本経済新聞社賞 (無鑑査)	静かなる午後I さようならの夏 1, 2	中牟田邦男 副島次郎	"	深い眠り	音成三男
鹿島市長賞	面浮立幼想	桶田明	"	失われた時間	窪田功男
佐賀県議会議長賞	綱打	於保正三郎	"	和傘の職人	大塚清吾

第7部 宣伝美術

県展奨励賞	ハイネ詩集 カパー表紙A	池の上順子	佳作	童話シリーズし ずくの精たちI	光岡幸子
日本経済新聞社賞	佐賀への歌II	久保博邦	奨励賞	創造と可能性	蒲原紀重
県商工会議所賞 連合会長賞 (無鑑査)	レジコード・ト 観「光ポスター」 「嬉野温泉」	江頭剛 馬場直美	佐賀県教育委員会賞	キャンペーンポ スター「消費生 活を考える」I	長谷川誠次
佐賀県時畜推進 委員会賞	ゆっくりガッチ り時えよ	大宝タクオ	招待	不燃物のほ か 不可能だろうか	宮原栄作
佐賀新聞社賞	印象の美 フィアンス展II	平井三和子	"	エディトリアル 青春の落書	小杉道久
佳作	道具再見A	大宅富夫	"	ポスターイラン スレイション7 試作	勝田宏
武雄市長賞	ARTHUR)ア ーサー(王)No.2	前田由美子	審査員		
N B C 賞	大本山南禅寺独 秀流賛歌楽譜A	小路久男			

(9) 第16回佐賀県学童美術展

主 催 佐賀県造形教育研究会、佐賀県立博物館
後 援 佐賀県教育委員会、佐賀県教職員互助会
会 期 12月5日～8日
会 場 佐賀県立博物館大展示室
観 覧 料 無 料

展示概況 本展覧会は、県下幼小中学校の美術振興を目的として創立されたものである。
今回で第16回をむかえ、県最高の子供の美術展覧会として順調な発展をとげつつある。

さすがに、市郡審査をパスし、さらに県の総合審査で入賞しているだけに、絵画、デザイン双方共、力量が感じられ、学校の先生、生徒、父兄など4日間で1,922名の入場者を得た。

出品点数 展示は特選のみ 300点（絵画、デザイン）

(10) 佐賀県高等学校美術展

主 催 佐賀県高等学校美術連盟、佐賀県立博物館、佐賀県造形教育研究会高等学校部会
後 援 佐賀県教育委員会
会 期 12月16日～21日
会 場 佐賀県立博物館大展示室
観 覧 料 無 料

展示概況 本県高等学校美術教育の振興と美術の発展のため企画されたもので、内容も、油絵、デザイン、工芸など80点が展示され、水準の高さがうかがえた。

出品点数 入 賞 20点
他入選 60点
計 80点

(11) 佐賀県高等学校書道展

主 催 佐賀県高等学校書道研究会、佐賀県立博物館
会 期 昭和51年1月22日～25日
会 場 佐賀県立博物館大展示室
観 覧 料 無 料
出品点数 169点
特別賞 22点
内訳 特 賞 6点

書連賞	7点		
本会賞	7点		
新人賞	2点		
特選	30点		
秀作	45点	賞の合計	97点

(12) 佐賀県書道教育連盟書初展

主催	佐賀県書道教育連盟、佐賀県立博物館		
会期	昭和51年2月5日～8日		
会場	佐賀県立博物館大展示室		
観覧料	無料		
展示概況	子供の作品展であったため、親子づれの人が多く、中小生 705、大人 739、大高生 24、合計 1,468名が観覧した。		
出品総数	2,523点		
	特別賞	50点	
	特選	173点	
	秀作	494点	
	佳作	1,806点	

(13) 筒井茂雄退官記念展

主催	佐賀大学美術科、佐賀県造形教育研究会、佐賀大学美術科同窓生一同、佐賀県立博物館		
後援	佐賀県教育委員会、佐賀美術協会		
会期	2月14日～18日		
会場	佐賀県立博物館大展示室		
観覧料	無料		
講演会	日時	2月18日	
	会場	佐賀県立博物館中展示室	
	演題	“豊かな表現活動をめざして”	
	講師	筒井茂雄（佐賀大学美術科教授）	
図録	500円		
展示概況	このたび佐賀大学教授、筒井茂雄氏が昭和51年3月をもって、退官されるのを記念して、これまでの教授の研究の成果を展観するものである。		

出品内容は、東光会展等に出品した油絵を中心に、美術教育資材パネルと合わせて展示し、佐大美術科同窓生を中心に、県内美術愛好者から多大の反響があった。

出品点数 筒井茂雄油絵 15点
美術教育に関する資料パネル 60点
計 75点

(14) 佐賀大学卒業制作展

主催 佐賀大学教育学部美術科、佐賀県立博物館
会期 2月22日～28日
会場 佐賀県立博物館大展示室
観覧料 無料

展示概況 佐賀大学美術科は、特別教科教員養成課程、中学校美術教員養成課程、小学校教員養成課程図工選修の各コースから成り立ち、特別教科は、九州、山口一円に亘り高校美術、工芸の教員として、多くの人材を送り出している。毎年、この期に、在学中の研究の集約を卒業制作として発表している。内容も油絵、日本画、デザイン、染織、窯芸、金工、彫塑などバラエティに富み7日間で1,078名の観覧者を得た。

出品点数 油絵 36点
日本画 2点
彫塑 2点
デザイン 6点
染織 10点
窯芸 3点
金工 5点
合計 64点

(15) 三根霞郷展

主催 佐賀県立博物館
会期 昭和51年3月6日～4月7日
会場 佐賀県立博物館3号展示室
観覧料 個人

150円 100円 50円

団体

120円 60円 30円

展示概況 本県出身の画家三根霞郷(1883-1946)画業を紹介したものである。彼の遺作はこれまでほとんど未紹介であったため多大の反響があった。

なお、当展に関する図録「三根霞郷」を刊行した。

出品目録

(油 彩)

作 品 名	制作年代	材 質	寸 法	署 名	所 蔵
上 賀 茂 風 景	1914	油彩・画布	タテ×ヨコ 33.0×45.5	左下<S. MINE>	佐賀県立博物館
円山公園夏の木陰	1917	"	33.3×45.2	右下<S. MINE>	"
アイヌの顔	1924	油彩・厚紙	32.8×24.0		"
雪 景	1925	"	23.5×33.0		
湯 煙	"	"	"		
夕 映 え の 家	"	油彩・板	"		
白 樺 の 疎 林	"	油彩・厚紙	"		
湖 畔 の 冬	"	"	"		
切 株 の ある 原 野	"	"	"		
畑 の 中	"	"	"		
曇 り 日 の 丘 陵	"	油彩・板	"		
牛 の いる 切 通 し	"	油彩・厚紙	"		
丘 の 道	"	"	"		
柵 の ある 風 景	"	"	"		
農 夫	1927	"	32.8×24.0		佐賀県立博物館
腰 か け る 女	"	"	45.0×33.0	一	"
晚 秋 の 庭	"	"	24.0×32.8		"
延 仁 寺 の 下 道	"	"	23.7×32.8		"
膝 立 て た 裸 婦	"	"	23.8×32.5		
伏 見 の 酒 倉	"	油彩・画布	50.0×65.5	左下<S. MINE>	
木 陰 の 農 婦	1928	油彩・厚紙	32.6×23.8		
取 穂	"	油彩・板	23.7×33.0		佐賀県立博物館
日 吉 町 瓦 焼	"	油彩・厚紙	33.0×24.0		
境 内	1928	油彩・厚紙	33.0×24.0		
水 浴	"	"	24.0×33.0		
巨 樹 の ある 雪 庭	"	"	33.5×45.5		
巨 樹	"	"	33.0×45.0	右下<T. MINE>	佐賀県立博物館
梢	"	"	"		
水 溜 り	"	"	"		佐賀県立博物館
山 越 え	1930	"	45.0×33.0		"

山 道 (I)	1932	油彩・厚紙	45.0×33.0		佐賀県立博物館
山 道 (II)	"	"	"		
婦 途	"	"	33.0×45.0		
荷車を引く人	"	油彩・画布	91.0×73.0		
古木のある山道	"	油彩・厚紙	33.0×45.0		
古 梅	"	"	45.0×33.0		
小 石 原	"	"	33.0×45.0		
水溜りのある森	"	"	"		
老 樹	"	"	"	右下<K, MINE>	
嵯峨野の雑木林	"	"	"	左下<K, MINE>	佐賀県立博物館
二尊院の土塀	1933	"	"	左下<K, MINE>	
農村の裏道	"	"	"	右下<K, MINE>	
竹 林	1934	"	"		
清 滝 越 え	"	"	"		
裸 婦	"	"	45.0×33.0		佐賀県立博物館
姉 妹	1935	"	33.0×45.0		
自 画 像	"	"	28.8×23.0	画紙裏墨書 <三根霞郷自画作>	
果 樹 園	"	"	33.0×45.0		佐賀県立博物館
牡 丹	"	"	"		
夏 茄 子	"	"	"		
丘陵の家	"	"	"		
鞍馬山林	"	"	24.0×32.5		
晩秋の奥嵯峨	"	"	33.0×45.0		佐賀県立博物館
農 村 (I)	1936	"	"	右下<K, MINE>	
農 村 (II)	"	"	"		佐賀県立博物館
農 村 (III)	"	"	"		
犬のいる農家	"	"	"		
山 麓 (I)	"	"	"		
山 麓 (II)	"	"	"		
菜 園	1943	"	"		
水 い も	1943				
秋 茄 子	1944				

(水墨他)

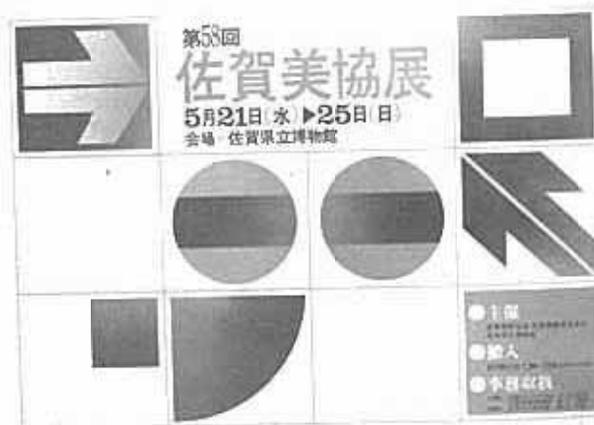
白	梅	1936	紙本水墨	33.0×45.0	左下露菴	
松	山	1937	"	112.0×35.0	右下霞郷 露菴	
溪流の石橋	"	"	"	136.0×46.4	左上	"
田園の孤橋	"	"	"	134.7×45.5	右下	"
釣	人	"	"	134.5×45.5	左上	"
冬の糺	森	"	"	43.0×57.0	左下	佐賀県立博物館
原	野	1938	"	112.0×35.9	右下	"
石	溪	"	"	134.5×45.5	左上	"
雪	景	"	"	33.0×42.0	左下三根氏	
けいとう	"	1939	"	112.0×35.0	右下霞郷 露菴	
祇王寺	"	"	"	132.0×34.5	左下	"
樹下遊童	"	"	"	135.0×45.0	右下	"
嘯	"	"	"	70.0×40.0	左上	"
双樹下二人	"	"	"	136.0×45.5	右下	"
対話	"	"	"	40.0×39.6	左下	"
尾根	"	"	"	46.0×56.0	左下	"
原野を流れる小川	"	1940	"	"	右下	"
若松の丘	"	"	"	45.0×54.3	左下霞郷 露菴	
山籠(Ⅲ)	"	1941	"	45.7×55.5	右下	"
愛宕山	"	"	"	135.0×69.0	右上	"
茄子畑	"	"	紙本着彩	屏風2曲1隻 168.5×185.4		佐賀県立博物館
初夏	"	"	紙本水墨	133.5×46.0	左上霞郷 露菴	
老松	"	1942	"	110.0×61.0	左下	佐賀県立博物館
樹間	"	1943	"	112.0×35.0	左下	"
雉子	"	"	"	110.0×60.0	右下	"
晩秋の木立	"	"	"	135.0×69.0		
農家八棟	"	"	"	"		佐賀県立博物館
茄子	"	"	紙本着彩	28.5×39.0	左下霞郷 露菴	
雑木林(I)	"	"	紙本水墨	26.0×35.0	左下三根	
叢林	"	1943	"	34.0×26.2	左下三根	
丘陵の若松	"	"	"	46.0×55.0	右下霞郷 露菴	
晩秋の雑木林	"	1944	紙本水墨淡彩	42.0×55.0	左下	佐賀県立博物館
雑木林(II)	"	"	"	43.0×53.0	左下	"

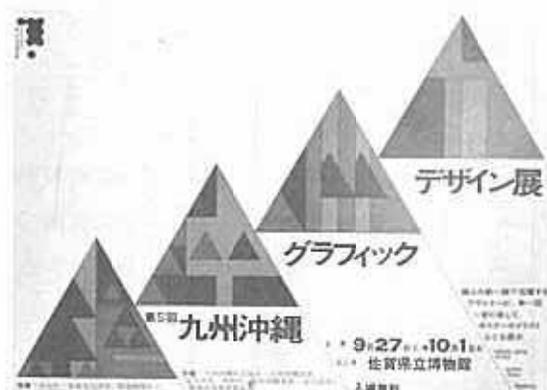
農	村 (I)	"	紙本水墨	29.5×40.5	左下	"	佐賀県立博物館
農	村 (II)	"	紙本水墨淡彩	33.0×41.5	左上	"	"
農	村 (III)	"	"	43.5×58.0	右下	"	"
川	辺の森	"	紙本水墨	151.0×69.0			
佐賀川	上川上流	1945	"	72.0×50.0	左下	霞郷 露菴	
山陰	の漁村	"	"	75.0×55.0	左下	"	佐賀県立博物館

(パステル・素描・スケッチ他)

会	話	1909	紙・パステル	25.8×30.4			
大隈	伯夫人像	1914	"	60.2×45.2			
樹	幹	1917	"	24.0×15.5			
伏見	の酒倉	1927	紙・色鉛筆	44.0×59.5			
神	話		紙・木炭	46.4×62.0			
裸	婦群像		"	48.0×61.5			
男	裸体		"	57.5×45.5			
石	塔		"	48.0×62.2			
農	耕	1919	"	42.6×58.4			
荷車	を引く人	1931	"	57.8×47.5			
永平寺	勅使門	1914	紙・淡彩	23.5×31.0			
札幌農大	博物館近辺	"	紙・鉛筆	"			
三	角山	1915	紙・淡彩	"			
樹	下石仏		紙・木炭	"			
洗	濯女		"	"			
古	梅		"	31.0×23.5			
樹	間		"	"			
白	菜		"	23.5×31.0			
婦	途		"	"			
釣	人		"	32.0×11.0			
農	家		"	31.2×13.0			
絵	葉書 (I)	1909	紙・淡彩	14.1×8.9			
"	(II)	"	"	"			

企画展ポスター





3. 昭和50年度観覧者総数

A. 常設展

	個 人			団 体			観覧料免除			招待者	優待者	合 計	開館日数	一日平均	期 間
	個 人			団 体			観覧料免除								
	大 人	大・高	中・小	大 人	大・高	中・小	大 人	大・高	中・小						
4. 1~ 5.25 佐賀県の歴史と文化展	1,662	595	795	280	94		286	179	2,914	161	171	47	152	4/1~5/25	
8.13~ 9.24 "	914	218	1,159	199	0	39	30	0	76	19	16	37	72	8/13~9/24	
12. 7~ 3.31 "	1,581	428	831	31	74		152	515	264	95	24	89	45	12/7~3/31	
合 計	4,157	1,241	2,785	510	168	39	468	694	3,254	275	211	173	80		

B. 企画展

	個 人			団 体			観覧料免除			招待者	優待者	合 計	開館日数	一日平均	期 間
	個 人			団 体			観覧料免除								
	大 人	大・高	中・小	大 人	大・高	中・小	大 人	大・高	中・小						
佐賀美術協会展	5,642	1,191	7,361	1,504	3,041	8,460				3,765		30,964	22	1,408	5/16~5/25
化石と進化学展	12,506	1,269	1,627	10,167	1,709	1,155				2,769	204	31,406	36	872	5/1~5/22
ドレスデン古伊万里名品展	872	163	335									1,370	9	152	7/2~8/6
勤労者美術展	530	73	1,766									2,369	5	474	9/15~9/17
理科作品展	1,158	112	4,010									5,280	7	754	9/19~9/26
九州沖縄グラフィックデザイン展	427	230	575									1,232	5	246	9/27~10/1
肥前の仏教美術展	3,308	485	673	524	2,135	637				2,307	71	10,140	31	327	10/6~10/15
第25回佐賀美術展	4,921	958	1,501	927	2,160	1,109				1,336		12,912	9	1,435	11/22~11/30
第16回佐賀県学童美術展	445	40	1,437									1,922	4	481	12/2~12/8
第25回佐賀県高等学校美術展	189	1,167	20									1,376	6	229	12/16~12/21
第16回佐賀県高等学校書道展	162	226	23									411	4	103	1/22~1/25
書初展	739	24	705									1,468	4	367	2/2~2/6
筒井茂雄制作展	753	311	397									1,461	5	292	2/14~2/16
佐賀大学卒業制作展	406	500	172									1,078	7	159	2/22~2/26
三根郷展	1,445	492	401	151	307	287				749	91	3,923	28	140	3/6~3/11
合 計	33,503	7,241	21,003	13,273	9,352	11,648				10,926	366	107,312	182	590	
A・B 総合計	37,660	8,482	23,788	13,783	9,520	11,687	468	694	3,254	11,201	577	121,114	355	341	
東光会佐賀支部、緑光会展												63	1	63	3/31~3/31

4. 普及活動

(1) 資料の刊行

○博物館報

館報は8頁、年6回発行としているが、本年度は内容の都合で下記のとおりにした。内容は、館蔵資料の紹介、行事のおしらせ、企画展の紹介、研究講座の内容を主としている。配布先は県内教育機関および、社会教育団体等で、館の利用促進の資料に供している。

印刷部数	1回	1,200部
形態	26号	B5版 アート紙 8頁
	27号	B5版 アート紙 26頁
	28号	B5版 アート紙 10頁
	29号	B5版 アート紙 6頁

○年報No.5

今年度は第5号を発行し、昭和50年度の博物館の管理運営、事業、資料の概況、茶室の利用概況について報告した。

印刷部数	1,000部
形態	B5版 アート紙 76頁

○「肥前の仏教美術」図録

この図録は昭和50年10月10日から11月9日まで、本館で企画した「肥前の仏教美術展」に伴って出品物の所在調査の過程において集成したものである。

印刷部数	800部
形態	B5版 アート紙
内容	カラー 7頁
	彫刻 24頁
	絵画写経 16頁
	高僧 18頁
	工芸 12頁
	考古 10頁
	石彫 20頁
	出品解説 44頁
	北肥前高僧小伝 16頁
	(38人)
	肥前の石工名録 19頁
	略年表 5頁

○「三根霞郷」図録

この図録は、郷土が生んだ異才画家三根霞郷の企画展のために集録したもので、かくれた郷土作家の紹介のために意義深いものである。

印刷部数	600部
形態	B5版 アート紙
内容	作品（カラー） 5頁 作品（モノクロ） 62頁 三根霞郷について 16頁 （坂本繁二郎、修山脩一、中田晃陽、陰里鉄郎、三輪英夫） 年 講 5頁 出品目録 5頁

(2) 博物館研究講座

本年度は「古伊万里名品展」「肥前の仏教美術展」の展観中に、展示資料を中心にした研究講座を実施した。

期 日	演 題	講 師	参加者数
7月8日	マイセン窯の成立をめぐって	東京大学文学部教授 前川 勝郎	230人
10月25日	大陸文化と肥前の仏教文化の交流について	九州大学文学部助教授 平田 寛	75人
11月1日	肥前の石仏について	県文化財調査監 木下 之治	83人
11月8日	肥前の高僧をめぐって	多久市南部小学校教諭 北島 治慶	40人
			計 428人

(3) 移動博物館

本年度は10月に多久市、11月に三瀬村、鳥栖市で実施した。

展示品は3会場とも当館所蔵の自然史資料、考古資料、郷土の先覚者書画の幅物、屏風等を展示した。また多久市では牟田辺遺跡の出土品、東原屋舎学則、聖廟関係楽器、藩政時代の邑地図など併せて展示した。三瀬村では「私の趣味展」と併設して展示し、鳥栖市では製薬関係、蒸気汽関車模型各種、教育関係資料、民俗資料など展示し市民の関心をあつめた。

会 期	会 場 名	期 間	視 覧 者 数
昭50.10.18~ 10.22	多久市旧市議会庁舎	5日	2,008人
昭50.11.15~ 11.17	三瀬村中央公民館	3日	676人
昭50.11.28~ 11.30	鳥栖市中央公民館	3日	2,000人
	計	11日	4,684人

5. 発掘調査

庚申堂塚発掘調査

所在地 佐賀県鳥栖市神辺町 247の2 261、262の1番地(通称庚申堂)

調査期間 昭和51年3月10日～19日

調査者 佐賀県立博物館 鳥栖市教育委員会

筑紫山地の権現山(626m)や九千部山(847m)を源として断層線に沿って蛇行しながら南流する秋光川・大木川は筑後川に注いでいる。この両支川が山地より流下し、筑後川に合流する間は、背後の山地が南東へと漸移して低丘陵となり、ついで平坦部となって筑紫平野の一角を形成する。

中でも、田代本町や庚申堂部落に属する比高約40～50mの中位段丘上にこの古墳は築造されているが、さらに南東250mには国の史蹟で室内に装飾文様が描かれている田代太田古墳があり、ほかに剣塚、岡寺古墳の2前方後円墳があって東肥前では有力な古墳の分布する地域である。

庚申堂塚は標高約52mの台地上に築かれていて、主軸の方位を北より27度西側にとり前方部を北西に向けている。

墳丘は全長約60m、後円部の径は標高53mの線を結ぶと約30m、前方部巾は約48mとなる。後円部の比高は標高53mの等高線より数値を求めると約5m、前方部の高さは後円部の高さとは大差ないが約0.5mだけ高い。

前方部には標高55mから56mの間に広狭の差はあるが巾約3mの平坦部がめぐって、この古墳が二段築成であることを物語っている。また、前方部前面には巾約5mの帯状の窪地があり、古墳東側および西側にも窪地状の遺構があって、これ等の窪地は古墳をめぐる周濠を思わせる。

標高54mの線を追って東側のくびれ部にくと巾約4mの造り出し様の平坦部があるが、これは築成頭初に構築したものであるのか、後世二次的な変化によるものかははっきりしない。

前方部の周濠外側には僅かに低く残る径約5mの円墳状の堆土がある。ここには以前巨石があったと伝えられており庚申堂塚の陪塚とも考えられる。

墳丘には葺石が前方部前面と西側斜面によく残っている。前方部斜面をめぐる平坦部や墳丘周辺からは円筒埴輪片が採集されているが、古墳周濠の東側でも住宅建設の際多数のこの種の埴輪が出土したといわれている。

後円部の東及び東側斜面には石段が取り付けられて後円部中央付近より前方部の頂の庚申尊碑礼拝に向う通路となっているため、築成当初よりいくぶん削平されているものと思われる。また後円部中央をやや離れた南側には戦時中に掘られた防空壕が陥没して落ち込みができています。

今、古墳にはスギ・ヒノキが植林され、周濠にはかなりの土が流入して埋まり、雑木・灌木が繁茂し、その外側一帯は畑地がめぐりますが南や東側には人家が建っている。

内部主体は後円部封土のほぼ中央直下に構築された横穴式石室で、主軸は北より60度東にふれ、ほぼ南西方向に開口している。

戦時中、後円部西側より掘られた防空壕は、当時すでに玄室まで掘り進められていて石室は開口していた。この掘削で羨道南壁の積石の一部が露出していたが今回の調査で、新たに北壁を確認した。この結果羨道の平面形は南と北の側壁間の巾約175cm、羨道の長さは南壁で約140cm、両羨道側壁の基底部は地山層に接していて、長さがほぼ20cm前後の花崗岩自然石を数個配列し、高い所で8段程度積み上げ、北壁で80cm、南壁で1mの高さにしている。

羨道部南壁は玄室南壁のほぼ延長線上にあるが、北壁は玄室北壁の延長線より南側に張り出しているため羨道部は玄室主軸の線に照して南側に片寄っている。

天井部からはかなりの量の土が崩落していたが残った封土の部分には版築の模様がよく残っており、両側壁上部の石積み構造からは天井部は石材による構築がなされていなかったものと考えられる。

羨道部と玄室とは2個の柱状の袖石で仕切られ、両袖石間の床には巾約20cm、長さ約60cmの柱状の敷居石で仕切られ、その天井部には巨石を横架して高さ60cmの入口をつくり、高さ約80cm、横50cm、厚さ25cmの花崗岩の閉鎖石を斜位に置いて閉鎖していた。羨道床面はすでに荒されていて敷居の有無は確認できなかった。

玄室内には土が30～40cmの厚さで堆積していた。これを排土した結果、平面形は奥行きが中央部で4m、奥壁巾26m、前壁巾2.25mで前壁側が35cmだけ短い概長方形をした形態をしている。

奥壁には巾1.85m、北側壁にも奥壁側から2mと115mの大形腰石を地山に掘り込んで立て、長さの不足は小さな石で補っている。南壁も大体同じ手法で石を配っている。

壁の構築は巨石を縦に壁体として地山に立て、その上に塊石を横積みにして持ち送り式に積み上げ、最後に長径70～80cmの長楕円形の天井石2枚で覆ったもので、奥壁は高さ約116mの巨石の上天井まで約10段の塊石を持ち送り式に積み上げている。塊石と塊石との隙間には板状の小石を粘土とともに詰めこんでいるが、こうした手法は他の各壁面にも共通している。

このようにして構築された壁面には天井から腰石にいたるまで全域にわたって赤色顔料が塗布されていて場所によっては1mmの厚さで残っているところもあった。

石室の構築に用いられた石材はこの地方に産する花崗岩が大部分をしめている。花崗岩の小塊はこの古墳が立地する中、高位の洪積段丘より集められたものと思われるが、風化が進み石の質ももろくなっていて壁面の一部を構成するこの種の石材には重量に耐え得ずにひび割れを生じているものが多く、雨水の侵入とともに石室の崩壊の危険性をはらんでいる感がある。

多くの石材の中で北側の腰石として使用されていた巨石の1つだけが結晶片岩である。これも近くにこの種の岩石の露頭がありその一帯より運ばれたものであろう。

庚申堂塚は防空壕が玄室に通じていたため幾たびか盗掘を受けていた。敷石は根こそぎにはがれて流入した土とともに散乱していたため、屍床の確認も副葬品を原位置でおさえることもできなかった。しかし、遺物には土器片や鉄器類の破片など若干検出しており、ほかに石室内外の写真記録・石室の測量・赤色顔料の分析・玄室内外の温度や湿度など多くの貴重な資料を得て今回の調査を終了した。

今後はこれ等の資料を整理検討して結果を報告する予定である。

資料の概況

1. 昭和49年度末資料の概況

資料は大別して自然史資料、考古資料、歴史資料、美術工芸資料および民俗資料に分類しているが、その概況はつぎのとおりである。

資 料 約41,000点

自然史資料 約 4,800点

佐賀県地形模型（25,000分の1）

佐賀市街地図（2,500分の1）

唐津市街地図（2,500分の1）

恐龍（タイラノザウルス）の生態模型（2分の1）（国立科学博物館より寄贈）

原生代（コレニヤ）化石

古生代（パラフズリナ・シダ）化石

中生代（魚類・アンモナイト）化石

新生代（メタセコイヤ・シキシマバス・二枚貝・サメ・ヨコヤマオウムガイ）の各種化石
研磨した佐賀県の岩石標本（球状閃緑岩、石英、安山岩他5点）

天然記念物エヒメアヤメの生態模型

佐賀県のチョウ類標本

佐賀県のトンボ類標本

佐賀県の甲虫類標本

佐賀県の野鳥標本

オオフウチョウ・コフウチョウ剥製標本（国立科学博物館より寄贈）

天然記念物カザサギの生態資料

- 生態模式パネル
- 生態写真

有明海・玄海の魚貝類標本

カブトガニの発生順序

有明海の干潟と生物の模型

- 干潟の状態
- ムツゴロウ・ワラスボ・シャミセンガイ・アゲマキ・シオマネギ等

蛇紋岩の岩石標本

石英塊の岩石標本

角せんはんれい岩の岩石標本

讃岐岩の岩石標本

玄武岩質集塊岩の岩石標本

考古資料 約18,100点

○先土器時代

尖頭器（杵島郡鬼の鼻山、多久市三年山・同茶園原遺跡出土）

細石器（馬渡島切立遺跡出土、伊万里市白蛇山岩陰遺跡出土）

○縄文時代

石器・土器（西有田町盗人岩洞穴出土、白蛇山岩陰遺跡出土）

西有田町坂の下遺跡出土の石器・土器・木器・編み籠の一部・木の実から発芽したアラガシの幼木

○弥生時代

三日月町土生遺跡出土の石器・土器・木器・炭化米・木の実

呼子町大友遺跡出土のカメ棺・装身具・伸展葬と屈葬人骨

唐津市桜馬場出土の鏡・銅釧・巴型銅器ほか（重要文化財）

北方町東宮裾・樺島山遺跡出土遺物の一括遺物

県内出土の各種銅鏡・銅剣・銅戈等

上峰村切通・唐津市葉山尻・神埼町八子遺跡等出土のカメ棺

○古墳時代

佐賀市熊本山出土の舟型石棺ならびに副葬品（県重要文化財）

県内出土の各種武器武具・農耕用具

基山町伊勢山遺跡出土の祭祀遺物

北方町永池古墳の線刻文様（人物）

鳥栖市田代太田古墳（史跡）の模型および同古墳の壁画模写図・同復原図

関行丸古墳出土品（県重要文化財）

歴史資料 約 1,200点

基肆城跡（特別史跡）出土瓦・国分寺跡出土瓦および同寺瓦窯跡出土瓦

県内出土の蔵骨器・在銘経筒

木造聖観音立像（重要文化財模造）

木造帝釈天立像（重要文化財）

木造天部立像

木造如来坐像

木造円鑑師禪坐像（重要文化財）
楊柳観音図像（重要文化財）
阿弥陀八大菩薩図像
善財童子歴参図像
釈迦三尊比立図像
八字文珠菩薩騎獅図像（県重要文化財）
水上懸仏（県重要文化財）
肥前鐘（県重要文化財）
今山合戦関係資料
豊巨秀吉の朱印状ほか文禄慶長の役関係資料
肥前名護屋城図屏風、朝鮮国禮曹の通諭文
島原の乱関係資料
藩政時代絵図および文教資料
佐賀藩精煉方関係資料
佐賀藩精煉方製造蒸気車雛形（鉄道記念物）同蒸気船雛形
石造物（観音像・地藏像・五輪塔・板碑・六地藏・三重塔・名古屋城旗竿石など）
パリ万国博覧会（慶応3年）参加関係資料
戊辰の役、佐賀の乱関係資料
郷土の先覚者の書・画等

美術工芸資料 約16,100点（陶片を含む）

○書跡

副島蒼海・中林梧竹・西川春洞・大坪柊軒の書

○絵画

洛中洛外図屏風

伊藤若冲（鶏図）他近世絵画資料

伝高橋由一（鮭）

百武兼行（イタリア風景・マンドリンをもつ少女・老婦人像）

久米桂一郎（フランス風景・りんご拾い・加茂川の新緑・ゼーヴル橋畔）

小代為重（久米桂一郎肖像・少女・テムズ河畔）

岡田三郎助（花野・バラ）

藤島 武二（裸婦・婦人像）

青木 繁（ランプ・男の像・神話・夕焼の海・佐賀風景・浴女・かるた5・木下大尉の肖像・
絵葉書・書・緋月婦舟）

高木背水・北島浅一・御厨純一・武藤辰平・山口亮一ほか本県関係の代表的画家の作品

○刀剣その他

肥前忠吉初代・2代・3代・6代・7代・9代（刀・短刀・槍先）およびその他の肥前刀匠の作品
品・小道具・鎧・火なわ式銃・大筒

○陶磁器

古唐津系（茶碗・皿・鉢・大鉢・水指・德利・花瓶・大壺）

初期伊万里系（茶碗・皿・德利）

古伊万里系（VOC商標入皿・鉢・水指・德利・角瓶・婦人像）

柿右衛門系（深鉢・德利・壺・陶板）

鍋島藩窯系（皿・大皿・青磁花器）

県内の古窯跡出土の陶磁器片（各種）

民俗資料 約 800点

有明海の漁撈具（重要民俗資料）・玄海の捕鯨用具一式

田代製薬関係資料

製蠟関係資料

採炭用具一式

石造物

三谷和紙製作用具一式

2. 昭和50年度購入資料

①歴史資料

品名	作者	数量	規格
(先覚者書画)			
警備書室記	古賀侗菴	1面	絹本墨書 額装 31.2×60.8
竹園画賛屏風	草場佩川	1隻	紙本墨書 屏風装 本紙 120.0×48.5
桜月礼賛図	古川松根	1幅	紙本淡彩 136.5×47.5
(文書・資料図書類)			
小城鍋島家文書	鍋島直茂ほか	10通	33.0×100.0ほか
曼荼羅の研究	石田尚豊	1冊	東京美術社
書の日本史	坂本太郎ほか	8冊	平凡社
公卿補任	国史大系編修会	6冊	吉川弘文館
尊卑 分脉	同	5冊	同
古文書時代鑑	東大史料編纂所編	4巻	東京大学出版会
姓氏家系大辞典	太田 亮	3冊	角川書店
大日本人名辞典	大日本人名辞書刊行会	5冊	講談社

②美術資料

品名	作者	規格
桜花美人図	岸 天 岳 筆	絹本着色 掛幅装 135.5×56.0
騎馬人図	大 木 英 鉄 筆	絹本淡彩 " 65.0×30.4
六代云々、金鞍云々	副 島 種 臣 書	紙本墨書 2 幅 各 150.5×40.5
風景	高 木 背 水 作	油彩、画布 80.0×100.0
西芳寺庭	下 川 千 秋 作	紙本着彩 額 装 195×130
蒼苑	"	" " "
阿蘇高原	"	" " 73×60
桜島	"	" " "
素描	岡 田 三 郎 助	30点、別欄
(資料図書)		
近代日本版画大系(4)	加 藤 順 透 編	毎日新聞社
水墨美術大系 (15)	田 中 一 松 外	講 談 社
韓国美術全集 (15)	金 元 竜 外	韓国同和出版公社

岡田三郎助素描内訳

資 料 名	形 状	寸法 (cm)	資 料 名	形 状	寸法 (cm)
風 景 習 作 (5)	紙、鉛筆	7.8×11.8	人 物 習 作 (3)	紙、鉛筆	17.2×10.7
" (6)	紙、色鉛筆	10.4×15.6	風 景 習 作 (10)	紙、コンテ	11.1×16.9
" (7)	紙、鉛筆	9.0×15.8	人 物 習 作 (4)	紙、色鉛筆	21.6×14.0
海 辺 図 (1)	"	9.6×16.3	風 景 習 作 (11)	紙、木炭	14.3×22.8
婦 人 習 作 (5)	紙、色鉛筆	9.7× 9.2	" (12)	紙、鉛筆	14.2×23.8
海 辺 図 (2)	"	11.5×15.9	風 景 習 作 (13)	紙、鉛筆	10.0×16.0
少 女 習 作 (1)	紙、色鉛筆	11.8× 7.4	" (14)	"	16.9× 9.4
群 像 習 作 (1)	"	9.7×15.7	" (15)	"	8.0×11.3
婦 人 習 作 (6)	"	16.8×10.2	" (16)	"	12.9×10.8
男 肖 像	"	17.7×10.0	" (17)	"	6.3×10.5
婦 人 習 作 (7)	"	16.6× 9.7	" (18)	紙、墨	11.8×16.2
" (8)	"	11.1× 9.9	少 女 習 作 (2)	紙、色鉛筆	10.6× 7.9
群 像 習 作 (2)	"	11.1×23.6	風 景 習 作 (19)	紙、木炭	10.5×36.6
風 景 習 作 (8)	紙、色鉛筆	10.2×15.1	" (20)	"	24.4×18.8
" (9)	紙、墨	16.6×30.8	婦 人 習 作 (9)	紙、鉛筆	10.7×17.7

③工 芸

品 名	数量	規 格
柿右衛門岩牡丹小壺	1	15cm
柿右衛門面取菊牡丹文徳利	1	23.5cm
色鍋島けしの花文高台皿	1	20cm
ガリポット	1	26cm
古伊万里人形	1	47cm

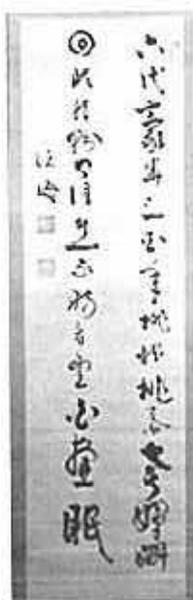
購入資料



七言絶句
金鞍玉勒云々 副島種臣筆



警備書室記 古賀侗菴筆



七言絶句
六代豪薜云々 副島種臣筆



桜月礼賛図 古川松根筆



竹図画賛屏風 草場佩川筆



素描
「富士山」岡田三郎助



素描「公園」岡田三郎助



色鍋島けしの花文高台皿 (20 cm)



柿右衛門、面取菊牡丹文徳利 (23.5 cm)



柿右衛門
岩牡丹小壺 (15 cm)

3. 昭和50年度寄贈資料

①自然史資料

品名	数量	規格	寄贈者
フウチョウ	1	オオフウチョウ 体長28cm、全長78cm	(No. 106) (仮剥製) 国立科学博物館より
	1	コフウチョウ 体長25cm、全長64cm	(No. 90) (仮剥製) " "
讃岐石	1	80cm×80cm×40cm 約1トン	杵島郡大町町大谷口溪流産 大町町長 梶原卓馬
玄武岩質集塊岩	1	170cm×200cm×140cm 約7トン	八幡岳中腹、波切不動明王付近産 東松浦郡相知町池 友田 岩次郎

②美術資料

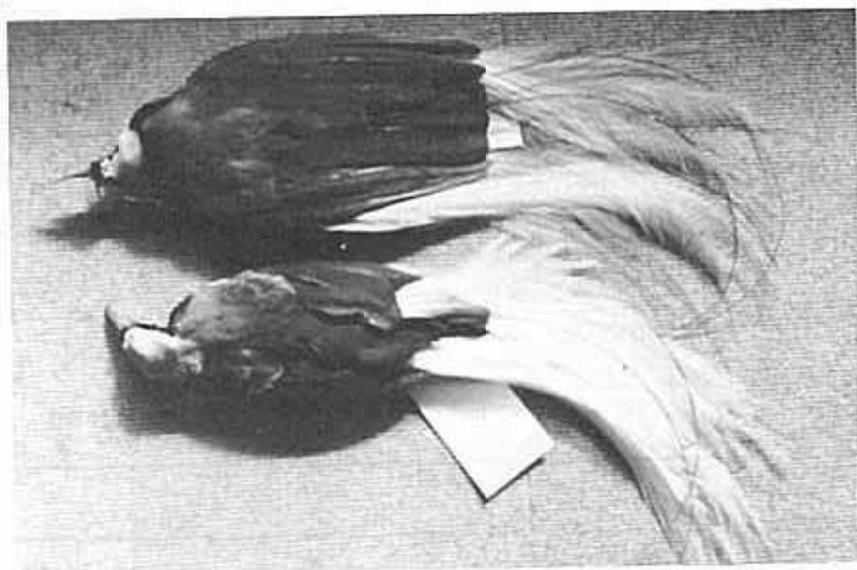
品名	作者	規格
新 鉦 開 発	古 賀 忠 雄 作	石膏着色 像高 193.0cm 佐賀市役所
小 城 公 園	下 川 千 秋 作	紙本着彩 33.5×24.0 下川千秋
蒼 苑 下 絵	"	" 18.5×21.0 "

③工芸資料

品名	数量	寄贈者
藤の川内陶片	7点 (1式)	坂 卷 敏 夫 (唐津市妙見)
襲屋谷陶片 20窯	201点 (2式)	古館正右衛門 (唐津市大名小路)

④民俗資料

品名	数量	規格	寄贈者
鬼 瓦	2		佐賀郡西川副町南里 正 定 寺
棟 瓦	2	78cm×60cm	佐賀郡諸富町徳富 藤 田 正 信
三谷和紙	3 綴	傘用の模様見本 34.5cm×47.5cm	神埼郡神埼町志波屋 城 野 貞 蔵
和紙切庖丁	3	13.5cm×12cm片刀	神埼郡神埼町三谷 宮 地 喜 一
写真機	1 式 (7)		福岡市西区田島 2 丁目 野 田 喜代次
歴史資料 (仏教美術)			
石造六字名号碑	1	110cm	佐賀郡大和町久池井宇都渡城 区長 中 溝 八 郎
" 大明神碑	1	70cm	" " "



フウチヨウ



讃岐岩 (約1トン)



玄武岩質集塊岩 (約7トン)



新鉱開発 古賀忠雄作 (石こう) (193cm)

4. 昭和50年度寄託資料

①歴史資料

品名	数量	規格
鐺 (銘 肥前国忠長)	1	鉄地八角縁打出耳鋤出雨竜図 83.0cm×81.0cm
鐺 (銘 肥前国住忠長)	1	鉄地丸型覆輪打出耳鋤下雨竜図 径91.0
鐺 (銘 肥州住家廣)	1	鉄地長丸型高肉色絵波に岩上猿図 82.0cm×81.0cm
刀 (銘 肥前佐賀住国廣)	1	長さ71.4cm 白鞘

(仏教美術関係)

品名	数量	規格	寄託者
紙本 東妙寺古図	1幅	89.5×139.0cm	神埼郡三田川町田手 東妙寺住職 川原真如
絹本着色 楊柳観音像	1幅	419.5×254.2cm	唐津市鏡宮ノ原 鏡神社宮司 多治見幸生
石造馬頭観音	1基	65.0cm	佐賀郡大和町久池井宇都渡城 区長 中溝八郎

②美術資料

品名	作者	規格
洛中洛外図 織月掃舟図	青木繁	紙本着彩 6曲1双屏風 油彩、画布 49.5×60.5cm

③工芸資料

品名	数量	規格
古伊万里花籠図平皿	1	径 31.5cm
初期伊万里染付雀図皿	1	” 20
初期伊万里染付兔図皿	1	” 20
初期伊万里染付吹墨兔図皿	1	” 20
古伊万里染付花鳥図水注	1	” 26
古伊万里染付乳くび瓶	1	” 21
古伊万里染付錦手籠平菊花文鉢	1	” 31
古伊万里八角浮世絵美人壺	1	” 34
古伊万里染付VOC平皿	1	” 36



絹本着色楊柳觀音像

419.5
×
254.2
cm



緞月歸舟、青木繁作

茶室「清恵庵」の管理と運営の概況

茶室「清恵庵」は、昭和48年10月郷土出身の実業家故市村清氏のご遺志により、同夫人幸恵氏より本県に寄贈されたもので、今年で3年目を迎える。本年度は当館の企画展開催中に茶会を催すなど、茶道各流派と相互協力を行い、県内はもとより県外まで幅広く普及に努めた。

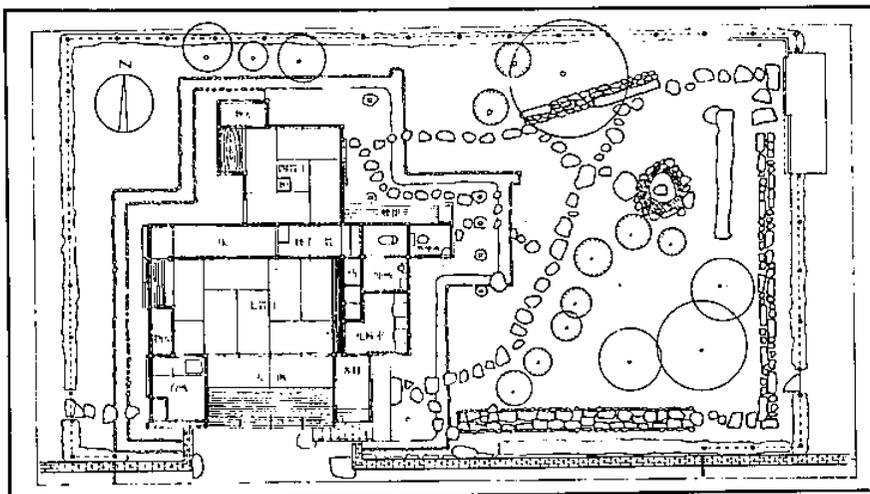
1. 茶室の規模および施設

設計者 堀口捨己 東京都太田区山王4-6-5

早川正夫 東京都港区南青山5-9-12 アイザワビル

構造 木造平家建寄棟造・規模 床面積 57.35㎡

茶室平面図



2. 茶室の規則、規程

○佐賀県立博物館の管理に関する規則（昭和45年佐賀県教育委員会規則第10号）抄

第15条 館長は、博物館の業務に支障のない範囲内において、大展示室・中展示室及び茶室等の施設を博物館事業に関係のある行事のために使用させることができる。

附 則（昭和48年10月11日規則第11号）

この規則は昭和48年10月11日から施行する。

○佐賀県行政財産使用料条例等の取扱いについて

地方自治法（昭和22年法律第67号）第228条の4第3項及び佐賀県立博物館の管理に関する規則（昭和45年佐賀県教育委員会規則第10号）第15条の規則に基づき、佐賀県立博物館の大展示室・中展示室及び茶室の使用を許可する場合の事務手続き及び使用料については、佐賀県行政財産使用料条

例（昭和39年佐賀県条例第33号）及び佐賀県公有財産規則（昭和40年佐賀県規則第6号）を適用し、関係条項の取扱いは、右記のとおりとする。

記

1. 大展示室・中展示室及び茶室の一時使用許可の手続きについては、佐賀県公有財産規則第20条の規定によることとする。
2. 前項の許可による使用料の額は、佐賀県行政財産使用料条例の別表中「講堂、体育館及びこれに類するもの」に該当するものとしてその額を定めるがこの場合、昭和39年12月17日付管第642号の総務部長通知による定めにかかわらず、実情に即して下表によることとする。

名称構造等	面積 (㎡)	期間 (時間)	使用料 (円)
大 展 示 室	523.5	4	1,500
中 展 示 室	136.0	4	500
茶 室	57.35	4	1,500

3. 前項の使用料の減免について佐賀県行政財産使用料条例第5条を適用する場合その取扱いについては前項の総務部長通知の運用によることとする。
4. 大展示室・中展示室及び茶室を使用させるさいの光熱水費等については、前項の総務部長通知の取扱いによることとし、なお光熱費等の徴収額は、下表のとおりとする。

区 分	大展示室	中展示室	茶 室	備 考
冷暖房しない場合	310	70	30	1時間当り
冷 房 の 場 合	840	140	—	〃
暖 房 の 場 合	590	130	—	〃

○佐賀県立博物館茶室「清恵庵」使用規程（昭和48年10月20日 佐賀県立博物館規定第26号）

（趣 旨）

第1条 佐賀県立博物館茶室清恵庵（以下「茶室」という）の使用については、この規程の定めるところによる。

（使用申込）

第2条 茶室を使用しようとする者は、茶室使用申込書（別記様式第1号）により使用期日の10日前までに佐賀県立博物館長（以下「館長」という）に申し込むものとする。

（使用の許可）

第3条 館長は、前条の申し込みによる茶室の使用を認める場合は、茶室使用許可証（別紙様式第2号）を交付するものとする。

（許可の取消等）

第4条 館長は、茶室の使用許可を受けた者が次の各号の1に該当する場合は、使用の許可を取り

消し、又は使用を中止させることができる。

1. 茶室使用申込書に虚偽の記載があったとき。
2. 許可の条件に違反したとき。
3. 関係職員の指示に従わなかったとき。

2. 前項の許可取消等により生じた損害についての補償は行わない。

附 則

この規程は、昭和48年10月20日から施行し昭和48年10月11日から適用する。

3. 茶室の利用状況

茶室「清恵庵」の利用については、3年目に入り、県内はもとより県外にも広く周知され好評を得ている。本年は婦人学級、青年団、学校の茶道同好会、あるいは各流の茶道グループなど、利用者の幅が広まり、社会教育、学校教育の一環として広く利用されてきた。

月例にみた利用状況は下表のとおりである。

年 月	利用団体数	利用者数(名)	見学者数(名)
50. 4	2	43	62
5	4	748	71
6	1	25	43
7	8	362	272
8	2	80	50
9	1	20	70
10	6	92	35
11	3	67	59
12	0	0	0
51. 1	4	54	8
2	1	50	74
3	2	92	33
合 計	34	1,633	777

4. 茶道具資料

(1) 昭和49年度末資料の概況は次のとおりである。

資料 約 145点

掛物(淡淡斎宗室、希斎宗有、大徳寺桃林の書)

花入(胡銅、朝鮮唐津、黒牟田焼、小山路焼、備前焼)

香合・香炉(12代今泉今右衛門、井上万二、宗祥、黒牟田焼)

茶碗(中里無庵、13代中里太郎右衛門、黒牟田焼、小山路焼、大川内焼青磁)

水指（信楽焼、朝鮮唐津、小山路焼）

風炉（道安風炉、切合唐銅風炉、合金面取風炉）

釜（切合釜、竹紋縁口釜、筋入炉釜、菊桐地紋炉釜、雲竜釜）

棚（竹台子、桐丸卓、桑小卓、眞塗長板）

染付火入（12代今泉今右衛門）

菓子鉢（唐津焼、黒牟田焼、小山路焼）

建水（黒牟田焼、小山路焼、唐銅）

曲湯桶、置炉、瓶掛等、

(2)昭和50年度購入資料 8点

品名	数量	規格
青磁花入	1	小笠原長春窯 口径 7.9 高さ 22.8
沈金寿松棗	1	安村稔作 口径 6.8 高さ 7.7
乳白手花鳥文茶入	1	13代酒井田柿右衛門作 口径3.7 高さ7.0 胴径15.7
染付丸紋水指	1	12代今泉今右衛門作 口径14.7 高さ15.7 胴径15.7
不審庵伝来写建水	1	11代中川浄益作 口径13.4 高さ 8
尻張釜	1	高橋敬典作 口径10.9 高さ17.8 胴径22
唐銅皆具 1揃	1	祥栄作 水指 口径12.2 高さ21.8 胴径18.5 杓立 口径 5.9 高さ17.7 建水 口径13.2 高さ8.8 蓋置 口径 3.9 高さ 5.0
応接台	1	榆木の埋れ木 高さ33 長さ 120 巾75

(3)昭和50年度寄贈資料 1点

青磁夏茶碗	1	小笠原長春窯 口径15.2 高さ 6
-------	---	-----------------------



青磁茶碗



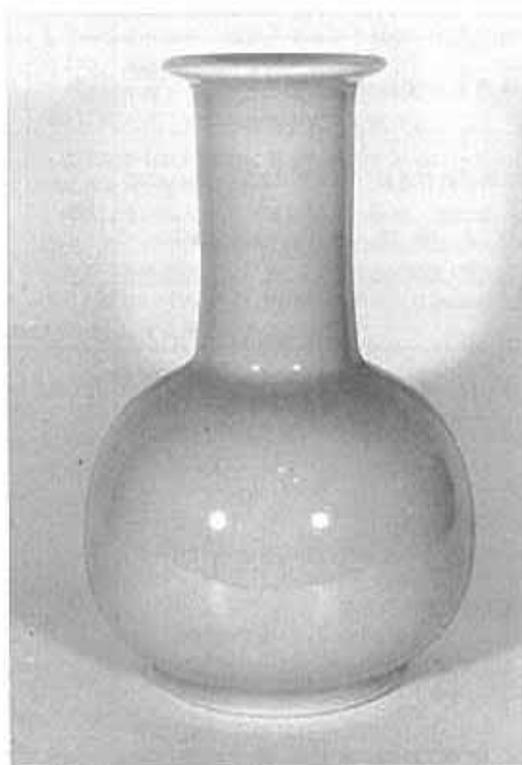
染付九紋木指



沈金寿松棗



不審庵伝来写建水



青磁花入

佐賀県立博物館の展示事業計画(昭和51年度)

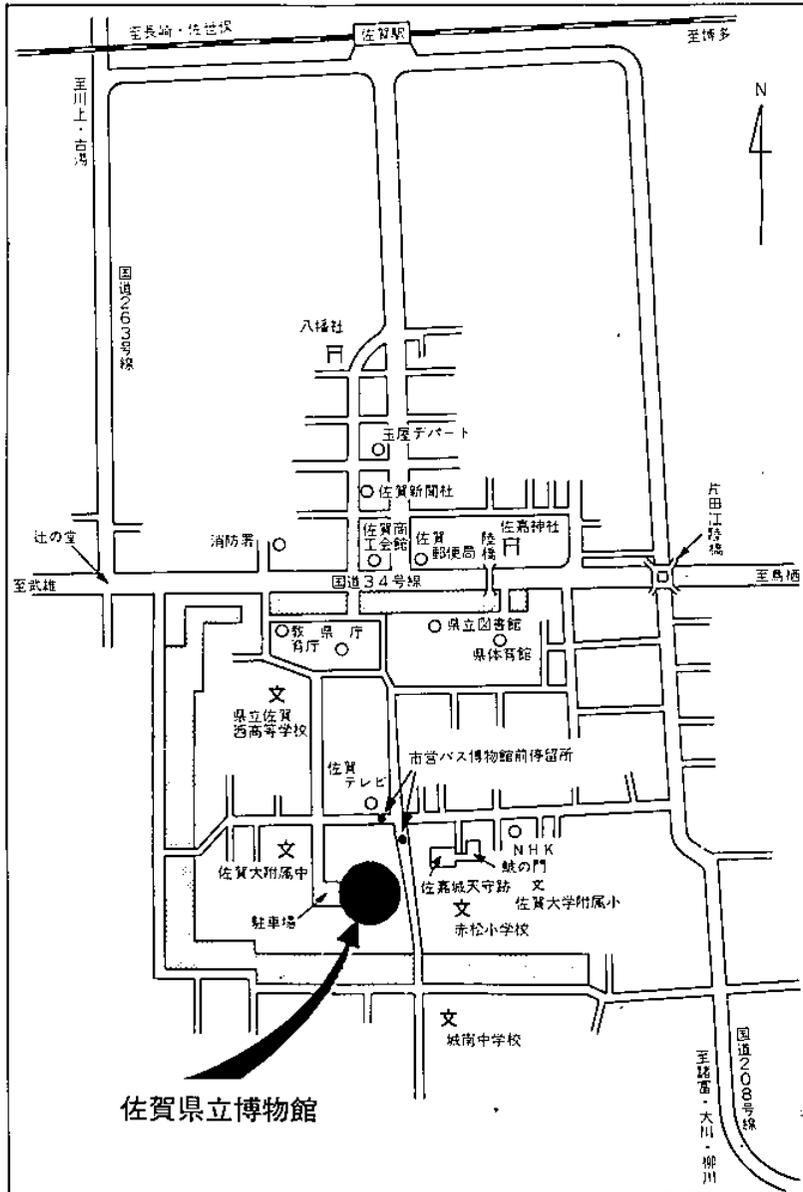
	常	設	展
佐賀県の歴史と文化展	4月1日～8月1日 52年 12月5日～2月24日	大人(30) 大・高生30(20) 中・小生20(10)	佐賀県の地質や自然および先史時代から、現代にいたる歴史と文化についての、理解を深めるために自然史、歴史、美術工芸の各部門について、系統的に資料を展覧する。

(月曜、祝日の翌日休館) 団体は20名以上
()内は団体料金

	企	画	展
展覧会名	会期	観覧料 ()内は団体料金	備考
日本伝統工芸秀作展	5月23日～6月6日 会期中無休	無料	重要無形文化財保持者が製作した伝統的な工芸品のうち、特に優秀なものを公開し、無形文化財の理解と普及に資するもので、陶芸、染織、漆芸、金工、木竹工、人形など112点を展覧する。なお、県内では12代、13代今泉今右衛門、奥川忠右衛門、12代、13代酒井田柿右衛門、中里無庵、鈴木照次氏等7名の出品作品がある。なおこの展覧会と同時に、第22回日本伝統工芸展佐賀県入選展も開催する。
佐賀美術協会展	6月16日～6月20日 会期中無休	常設展の料金に含む	佐賀美術協会は60余年の歴史を持ち、県展と並んで、有力な登龍門ともなっている。 本展は今年第59回を迎え、日本画、洋画、彫刻、工芸の4部門で、約二百数十点が展覧される。
県書道作家協会展	7月15日～7月20日 会期無休	無料	近代書道の先駆者、中林梧竹、副島蒼海という偉大なる書家を先輩にもつ本県の書道界が一堂に会して、本県書道界の飛躍的發展を期して展覧するものである。
県書道教育連盟 七夕書道展	7月22日～7月27日 会期中無休	無料	この書道展は、小・中・高等学校の児童、生徒を中心に一般人も含めて作品を公募して展示するものである。 本展をとおして書写、書道教育の成果をあげ、本県の書写書道に貢献し、振興發展に寄与する。
柿右衛門展	8月29日～9月26日 会期中無休	大人300(250) 大・高生200(80) 中・小生100(50)	本県の有田は日本磁器のふるさとであり、赤絵の創成の地として、国の内外で大きく注目されている。この展覧会は江戸時代から現代に至る柿右衛門にゆかりの深い名品、名器を中心に展覧する。また、日本赤絵磁器の発達のあとを探る歴史資料もあわせて展示し、日本陶芸史と東西美術交流史の上で、柿右衛門様式とその技法が果した業績をふりかえるものである。
肥前歴史の旅 佐賀400年をたづねて (第1部) 現代佐賀美術秀作展 (第2部) (若楠団体芸術展)	10月10日～11月8日 会期中無休	無料	第1部門「肥前歴史の旅——佐賀400年をたづねて」は、竜造寺隆信時代から幕末維新にいたる主なる肥前の藩政と人物及びその文化を紹介し、日本の歴史に果たした佐賀の役割を追求する。 第2部門「現代佐賀美術秀作展」は各美術部門にわたって現代活躍中の作家の秀作約100点を展開し、佐賀の現代作家を紹介する。
佐賀県美術展	11月20日～11月28日 会期中無休	大人150(100) 大・高生100(50) 中・小生50(30)	日本画、洋画、彫塑、工芸、写真、書、宣伝美術の各部門で県内より公募した作品、及び招待作品を展示して佐賀県の現代美術を一般に紹介し、地方文化の高揚に資するものである。

展 覧 会 名	会 期	観 覧 料 ()内は団体料金	備 考
佐賀県高等学校美術展	12月1日～12月6日 会期中無休	無 料	県下の高等学校生徒が制作した水彩、油彩等の絵画を集め展覧するもので、本県高等学校美術教育の振興に資する。
佐賀県学童美術展	12月9日～12月14日 会期中無休	無 料	本展は県下の小・中学校の美術振興のため創設された小・中学校生徒の登龍門の展覧会であり、絵画、デザインとも力量あふれる展覧が期待される。
第 教 職 員 美 術 展	12月18日～12月23日 会期中無休	無 料	県下の学校に勤務する教職員の絵画、彫刻、書、デザイン、写真、工芸の作品を一堂に展覧する。新鮮な着想と、のびやかな表現が期待される展示会である。
九州グラフィック デ ザ イ ン 展	52年 1月5日～1月9日 会期中無休	無 料	この展覧会はデザイナーの登龍門となっており、九州各県広域文化の向上発展と相互の交流をはかるための一環である。 現在、第一線で活躍するグラフィックデザイナーの作品50点と一般公募作品 100点余を展示し、グラフィックデザイン界の発展に寄与するものである。
九州の原始文様展	1月15日～2月24日 月曜・祝日の翌日休館	大 人200(150) 大・高生150(80) 中・小生100(40)	粘土を焼成することにより、「器」という生活利器の製作技術を学びとった縄文時代人は、また平坦な器面に各種文様を描くことにより、美意識の表現を試みたのである。 当館では、過去の基礎調査資料をもとに、九州の縄文式土器の集成をおこなうことにより、各時代の文様変遷の集成・編年の確立と美意識の解明・文化交流の追求や、土器の科学的分析を試みることにより、当時の土器製作技術を解明し、現代陶磁器の原点ともいふべき、縄文式土器の総合的な究明を試みる。
肥 前 の 近 世 絵 画 展	3月5日～3月30日 会期中無休	大 人250(200) 大・高生150(80) 中・小生100(40)	桃山期から江戸末期に至る、肥前を中心とした近世絵画の佳品を展覧する。 内容は主に鍋島本藩、蓮池藩、小城藩、鹿島藩、武雄邑、多久邑や、唐津の小笠原藩の御抱絵師並びに文人画派、写生画派、洋風画派等の作品(屏風・襖・額・掛幅・帖他)であって、肥前における近世絵画の系譜を明らかにする展示である。

案内図



交通機関

佐賀駅から市営バス市内^{右廻り}博物館前下車
 各バス（昭和、祐徳、市営）で県庁前下車

南へ300m 徒歩12分

佐賀県立博物館年報 第6号

発行年月日 昭和51年6月30日

編集発行 佐賀市城内1丁目15-23
佐賀県立博物館

印刷 佐賀印刷社

佐賀県立博物館

〒840 佐賀市城内一丁目15-23 TEL(4)3947